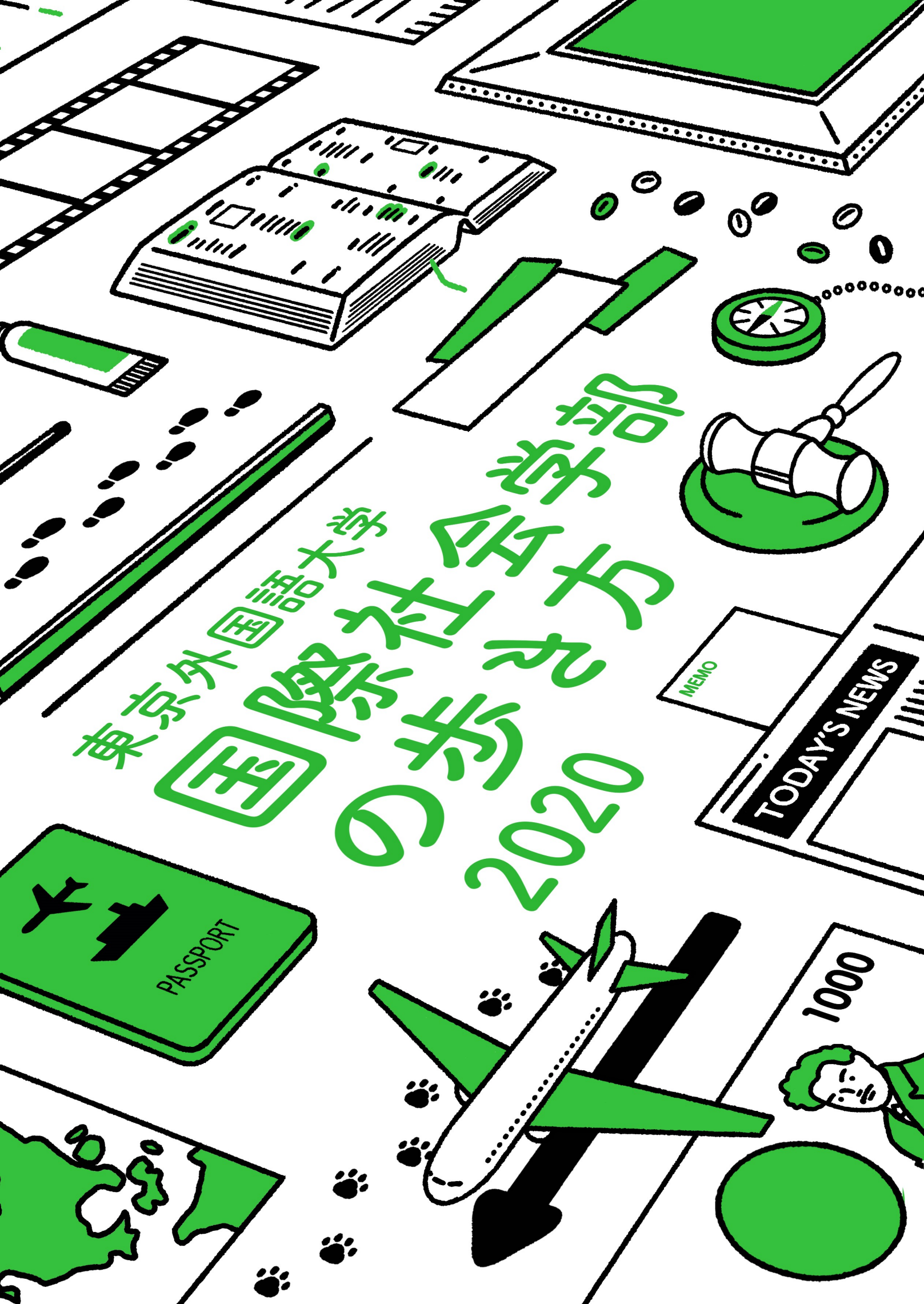
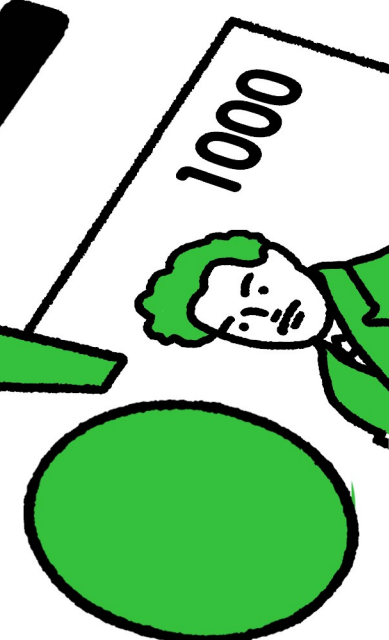
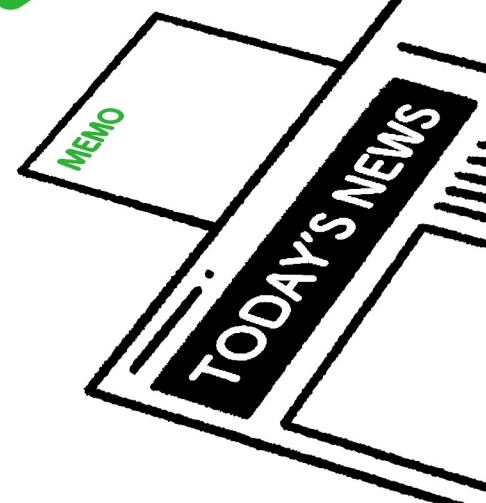




部
科
大
学
外
国
語
学
部
の
共
同
の
2020

東京外
国語学
部



1000

東京外国語大学
国際社会学部の歩き方

2020 年度入学生版

目 次

1. 国際社会学部へようこそ! (国際社会学部長 真島一郎) 1
2. 国際社会学部の4年間 2
3. コース紹介 7
4. 卒業論文タイトル～2019 年度卒業生～ 13
5. 国際社会学部教員一覧 24
6. 外大図書館ビジュアル大図鑑 27
7. 留学ガイド 31
8. 学生相談室 35

『国際社会学部の歩き方』は、東京外国語大学国際社会学部の新入生を主な対象として、授業の履修の仕方や大学での学び方を知るためのガイドブックとして作成をしています。

国際社会学部へようこそ！

本学国際社会学部へのご入学、おめでとうございます。

これから4年間のキャンパスライフへと船出するにあたって、国際社会学部では、何をどのように学んでいけばよいのでしょうか。大学という場でみずからの思考を深めていくための具体的な方法や手順について、みなさんはいま、さまざまな期待をふくらませ、また初めのうちは、すこし不安を感じているかもしれません。

わたしたち国際社会学部の教員は、そんな新入生のみなさんへの贈り物として、小冊子『国際社会学部の歩き方』を、手作り感がじかに伝わるよう、毎年心を込めて編集してきました。この『歩き方』は、『履修案内』で詳細に記されている内容を具体例に即して分かりやすく説明し、とくに学部のカース案内に重点を置いたガイドブックになっています。みなさんが国際社会学部の学生として、これから段階を追って、着実に学修を積み重ねていくうえでの具体的なイメージがもてるような、その意味では文字どおりの歩き方、ロードマップがこの冊子に示されているのです。2年生前半のカース選択・ゼミ選択の時期をはじめ、卒業までの自分の学修プロセスを確認する必要があるこれから出てくるたびに、本冊子をぜひ参照し、手元において活用するよう心がけてください。

入学から卒業へといたるみなさんの大学生活は、特定のコース・ゼミに所属する以前の2年間と、以後の2年間とで、大きく二分されます。1、2年生の前半では、なにより専攻地域の言語をしっかりと身につけながら、同時にその地域の歴史や文化をめぐる基礎的な知識を習得することが第一の目標となります。この2年間は、現代の社会や世界をめぐるさまざまな問題のうち、自分の関心が具体的にどのようなテーマに向いているかを精確に絞りこむうえでも、貴重な時間になるはずで。国際社会学部にはそもそもどのようなカースがあり、大学生活後半の3、4年生時に、自分にとって最適なカースやゼミを選びとるには、あらかじめ前半の2年間で、履修計画上どのような準備をしておく必要があるのでしょうか。そうした点を、まず「国際社会学部の4年間」の各ページで確認してみてください。

これに続く「カース紹介」と昨年度卒業生の「卒業論文タイトル」では、国際社会学部3カースのそれぞれで、導入科目→概論科目→専門科目の段階的な学修プロセスがどのように構成されているのか、また大学生活の集大成にあたる卒業論文・卒業研究がじっさいどのようなテーマで提出され、各カースの特色がそこにどのように反映しているかを詳しく知ることができます。

さらに、2020年度版『歩き方』の目玉は、なんといっても「外大図書館ビジュアル図鑑」「留学ガイド」「学生相談室」など、冊子後半の記事の充実ぶりにあるでしょう。これは、すぐにでも読んでおかなきゃ損ですねえ。第一、分かりやすっ！

この冊子に心をこめたとおり、国際社会学部の4年間をつうじ自分なりの問いを立て、その問いを縦横無尽にひらきながら学びぬこうとするみなさんの「歩き方」を、わたしたち教員は全力でサポートしていきます。マジ激アツな、めざましき思考の日々を、ぜひ共にすごしてまいりましょう。

国際社会学部長 真島 一郎

国際社会学部の4年間

東京外国語大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

東京外国語大学は、皆さんが卒業時まで以下に以下の力を身につけたとき「学士（言語・地域文化）」の学位を授与します。この方針を意識して、これから大学で学んでいってください。

1. 高度な言語運用能力：専攻言語に関し、読む、聞く、話す、書くという4技能で高度な言語運用能力を身に付けていること。国際社会で活躍するに足る、十分な英語運用能力を身に付けていること。
2. 世界諸地域についての知識・教養：専攻する地域の文化・社会について、さまざまな観点から十分に学び、基礎的知識・教養を身に付けていること。
3. 現代社会を生きる力：現代社会を生きる上で必要な幅広い知識・教養と、世界において日本を正しく紹介することのできる日本発信力を身に付けていること。
4. 専門的な知識：世界諸地域の言語・文化・社会の仕組みを解明する諸学問分野や、国際的な諸問題を超越的な視点から扱う諸学問分野のうち、所属する学部・コースが扱う分野についての専門的な知識を身に付けていること。
5. 主体的に考え、行動し、発信する力：ものごとを探求し、客観的に分析する力、さまざまな情報を体系化して整理する力、それらをわかりやすく表現する力を身に付けていること。短期・中長期の留学やインターンシップ等への参加の経験を通じ、主体性と、世界の人々と協働する行動力を身に付けていること。

国際社会学部の14の地域／27の専攻言語

皆さんは入学とともに専攻する地域と言語をもちます。自らの地域と言語を大切にして、大学での学びを組み立てて下さい。

北西ヨーロッパ	英語	北アメリカ	英語
西南ヨーロッパ	フランス語 イタリア語	中央ヨーロッパ	ドイツ語 ポーランド語 チェコ語
イベリア	スペイン語 ポルトガル語	ラテンアメリカ	スペイン語 ポルトガル語
ロシア	ロシア語	南アジア	ウルドゥー語 ヒンディー語 ベンガル語
中央アジア	ロシア語 ウズベク語 モンゴル語	東南アジア	インドネシア語 マレーシア語 フィリピン語 タイ語 ラオス語 ベトナム語 カンボジア語 ビルマ語
中東	アラビア語 ペルシア語 トルコ語		
アフリカ	英語＋		
オセアニア	英語＋	東アジア	中国語 朝鮮語

入学から卒業まで

皆さんの履修する授業は「世界教養プログラム」と「専修プログラム」に分けられます。世界教養プログラムは言語文化学部、国際日本学部と共通のカリキュラムです。専修プログラムは国際社会学部独自の授業で構成されています。ここでは、履修の大まかな流れをつかむための枠組みだけを示しますので、授業の取り方は『履修案内』をよく読んでください。

卒業までには定められた単位を修得する必要がある、これを**卒業所要単位**といいます。3年次への進級のためには2年次の終わりまでに一定の単位を修得する必要がある、これを**進級要件**といいます。

卒業所要単位と進級要件は以下の表の通りです。言語科目の単位は専攻地域によって異なるので、『履修案内』で確認をしてください。専修プログラムの「導入科目」「概論科目」「専門科目」は所属するコースの授業の単位を一定数以上含むことが必要になります。

卒業所要単位の内訳

			進級要件 単位数	卒業所要 単位数	
世界教養 プログラム	言語科目	専攻言語	15※	36以上※	※言語科目の履修の仕方は地域ごとに異なるので『履修案内』等でよく確認をしてください
		諸地域言語			
		教養外国語 G L I P 英語科目			
	地域科目	地域基礎	6	6以上	地域ごとに指定される授業があります
	基礎科目	基礎リテラシー	1	1	基礎科目は1年生のうちに履修してください
		基礎演習	2	2	
	教養科目	教養科目	-	16以上	
専修 プログラム	導入科目	導入科目	8	8以上	所属したコースから2単位以上
	概論科目	概論科目	-	6 以上	所属したコースから4単位以上
	専門科目	講義科目（専門演習）	-	24以上	所属したコースから12単位以上
		本ゼミ	-	4	※指導教員の専門演習が本ゼミ
		卒業研究演習	-	4	
卒業研究			-	8	
関連科目			-	0以上	※他学部・他大学の授業は関連科目の単位になります
卒業所要単位数 合計				125以上	

注：この卒業所要単位の内訳は2019年度以降の入学生に適用されるものです。それ以前の入学生および2021年度以前の3年次編入生は該当する入学年の『履修案内』に従ってください。

コースとゼミの選択【2年次 春学期】

2年次の春学期終了時には、皆さんの希望にもとづいてコースとゼミ（注：指導教員が開講する専門演習が「本ゼミ」です。普段は「ゼミ」と呼びます）が決まります。

2年生に進級すると、コースとゼミを選ぶための説明会や意向調査が始まります。コースは何を専門的に学びたいかによって選択することになります。選択するコース・ゼミについては1年次から考え始めるようにしましょう。とくに導入科目、教養科目の履修に際しては、2年次以上で専門的に学びたいことを意識して、関連の深い授業を履修するようにしてください。

国際社会学部の3コース

国際社会学部には専門性に則して3つのコースがあります（各コース紹介は7ページ以降を参照）。

皆さんの希望にもとづき所属するゼミとともにコースが決まるのは2年次の春学期終了時です。導入科目からコースを意識して履修するようにしてください。それぞれのコースに所属している教員の専門分野はこの冊子の24ページ以降に掲載してあります。また、各コースの学生の卒業論文のタイトルが13ページ以降に載っているので、将来の自分の卒業論文のテーマを考える参考にしてください。

■地域社会研究コース

地域間・国家間のグローバルな関係を踏まえつつ、対象とする地域（エリア）の歴史や現代社会を専門的に学修する、地域に焦点を合わせたコースです。

■現代世界論コース

現代世界が直面する問題を対象とし、社会学、ジェンダー論、カルチュラルスタディーズ、社会思想研究などの領域を中心に、最新の方法で取り組むコースです。

■国際関係コース

社会科学の方法論を体系的に学び、法学、政治学、経済学、国際協力論などの学問分野を専門的に学修するコースです。

4年間の履修の流れ



国際社会学部の導入科目（2020 年度）

1 年生はまず、専修プログラムでは導入科目の履修を計画する必要があります。2020 年度に開講する各コースの導入科目を以下の表に示しました。授業内容はシラバスで確認をすることができます。

【シラバス検索の方法】

大学 HP のトップページ→**在学生の方へ**をクリック→下の方にスクロールすると→**シラバス検索**



春学期・夏学期開講

科目名	担当者	学期	曜限	教室
地域社会研究入門1	小川 英文 [OGAWA Hidefumi]	春学期	水3	701メダカ・ホール
歴史社会研究入門1	福島 千穂 [FUKUSHIMA Chiho]	春学期	水3	113
歴史社会研究入門1	篠原 琢 [SHINOHARA Taku]	春学期	水4~5	226
地域社会研究入門2	木村 暁 [KIMURA Satoru]	春学期	月2	227
世界認識論入門	中山 智香子 [NAKAYAMA Chikako]	春学期	月5	115
政治社会論入門	大川 正彦 [OKAWA Masahiko]	春学期	木1	102
社会関係論入門	金 富子 [KIM Puja]	春学期	木2	101
社会関係論入門	五十嵐 ミュゲ [IGARASHI MUGE DANE]	春学期	火4	227
法学入門1	鈴木 美弥子 [SUZUKI Miyako]	春学期	火5	115
政治学入門1	松永 泰行 [MATSUNAGA Yasuyuki]	春学期	木2	114
政治学入門2	若松 邦弘 [WAKAMATSU Kunihiro]	春学期	月5	108
経済学入門1	蒲生 慶一 [GAMO Keiichi]	春学期	月2	101
経済学入門3	チョイ イーケオン [Choy Yee Keong]	春学期	月4	109

秋学期・冬学期開講

科目名	担当者	学期	曜限	教室
歴史社会研究入門2	巽 由樹子 [TATSUMI Yukiko]	秋学期	水3	115
政治社会論入門	大川 正彦 [OKAWA Masahiko]	秋学期	木1	102
世界認識論入門	本橋 哲也 [MOTOHASHI Tetsuya]	冬学期	集中	211
法学入門2	鈴木 美弥子 [SUZUKI Miyako]	秋学期	火5	115
政治学入門3	中山 裕美 [NAKAYAMA Yumi]	秋学期	火4	101
政治学入門3	土井 翔平 [DOI Shohei]	秋学期	木4	115
経済学入門2	蒲生 慶一 [GAMO Keiichi]	秋学期	月2	115
経営学入門	渡辺 周 [WATANABE Shu]	秋学期	火4	114

国際社会学部で社会を学ぶ

■インターンシップ

就職活動につながるインターンシップ以外にも、広く社会や仕事を知るためのインターンシップの機会が用意されています。海外でのインターンシップの機会もあるので、積極的に参加してください。

世界教養プログラム「スタディツアー：インバウンド推進・地域活性化のためのスタディツアー」

(夏・冬学期)

留学生と日本人学生が山形県の農山村に滞在し、地域の歴史や文化、現在の産業などの体験学習を行います。加えて地元自治体や住民、観光協会等と連携して、地域の魅力を海外在住者向けに多言語で発信するコンテンツを作成し、海外からのインバウンドを推進することで地元に成果を還元する取組みです。

この授業は、山形県の自治体と協働して実施されます。事前学習では観光・インバウンドを学び、事後学習では製作したコンテンツを海外に配信することを予定しています。

■公務員試験対策授業

国際社会学部では、国家公務員総合職試験、外務省専門職の受験科目区分に対応した授業がそろっています。地方公務員の試験にも対応しています。

■ボランティア活動

ボランティア活動は、VOLAS（ボランティア活動スペース：研究講義棟 2 階 206 室）で紹介をしているほか、活動の相談、サポートも行っています。

国際社会学部で世界を学ぶ

■留学→詳しくは p.31～

ショートビジット、派遣留学、休学留学など多様な留学の機会があります。1年生の夏学期から参加できるプログラムもあります。

■英語による授業

英語によって行われる授業は世界教養プログラムの GLIP 英語科目のほか、専修プログラムでも多く開講されています。英語による授業の履修は世界中から外語大に学びにきている留学生と交流するチャンスでもあります。

世界教養プログラム「スタディツアー：国連研修プログラム」(冬学期)

ニューヨークの国際連合本部で、国連職員の方々による国際的諸問題に関するブリーフィングの後、討議を行い、国連の職務・活動を学びます。参加希望者多数の場合は選考があります（参加費は原則として自己負担。一部補助がでる場合もあります）。

コース紹介

地域社会研究コース

地域社会研究コースでは、「導入科目 → 概論科目 → 専門科目」という積み重ねを通して、世界の様々な地域に住む人たちの世界について「歴史的なものの見方」と「現代社会を構造的に捉える視角」を学んでいきます。

地域社会研究コース 導入科目

導入科目では、地域研究の実践例や歴史学の方法論について入門的に学びます。この科目の授業は、原則として本コースの専任教員によるリレー講義で構成されています。世界の様々な地域や学問領域を知ると同時に、コースの教員を知ってゼミ選びの参考にしてください。

科目名	授業題目	担当（取りまとめ）教員
地域社会研究入門1	地域研究の方法と実践	小川英文（リレー）
地域社会研究入門2	地域研究入門	木村暁（リレー）
歴史社会研究入門1	世界史を開く	福嶋千穂（リレー）
歴史社会研究入門2	現代史と映像	篠原琢（リレー）
歴史社会研究入門3	歴史学入門	巽由樹子（リレー）

地域社会研究コース 概論科目

概論科目では、より専門的な研究の方法と実践について学びます。リレー講義と、一名ないし二名の担当教員による講義とがあります。

科目名	授業題目	担当（取りまとめ）教員
地域社会研究概論	地域社会と経済生活	澤田ゆかり（リレー）
地域社会研究概論	ナショナリズムとイスラーム主義（国家・民族・宗教）	青山弘之
地域社会研究概論	比較宗教論研究（国家・民族・宗教）	丹羽泉
歴史社会研究概論	文書・画像史料論	久米順子（リレー）
歴史社会研究概論1	近代世界の形成（グローバル・ヒストリー）	高橋均
歴史社会研究概論2	「周縁」から考えるグローバル・ヒストリー（グローバル・ヒストリー）	伊東剛史・大鳥由香子

地域社会研究コース 専門科目

専門科目では、特定の地域や主題（テーマ）について深く学びます。専任教員の講義のみならず、学外から多様な専門家を非常勤講師として招いて開かれる講義も少なくありません。毎年のシラバスや時間割で授業の内容や担当者をよく確認してください。



メキシコの仮面

地域社会研究コースで学べる地域

北西ヨーロッパ、中央ヨーロッパ、西南ヨーロッパ、イベリア、ヨーロッパ、北アメリカ、ラテンアメリカ、ロシア、中央アジア、アジア、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、オセアニアの各地域
関心のある講義や演習を組み合わせることによって、複数の地域を対象とするトランスリージョン（二地域・多地域間関係）を学ぶことも可能です。

地域社会研究コースで学べる学問領域

このコースで演習や講義を開いている教員が専門とする学問領域は、大きく言えば「地域研究」「歴史学」になりますが、その中でも人文・社会科学にまたがる多様な分野を含んでいます。

ナショナリズム研究、政治研究、思想研究、ジェンダー研究、感情史、文化史、生態人類学、地球環境学、美術史、農村社会学、村落開発、地域開発、経済論、経済史、軍事史、民衆史、政治社会史、図像解釈学、歴史基礎学（資料体学）、宗教学、宗教社会学、宗教史、都市史、貧困史、社会経済研究、文化人類学、先住民研究、地域関係研究など



ブダペシュト（ハンガリー）、ドナウ川から見た国会議事堂

現代世界論コース

経済主導のグローバリゼーションがもたらす一極化された世界の傍らで、固有の環境と社会のもつ多様性を私たち一人一人が生きているのが現代です。そこには生活とともに「なりわい」があり、規則とともに「ならわし」があり、教育とともに「まなび」が、差別とともに「ちがひ」が、所有とともに「もやい」が、そして公の歴史とともに「ものがたり」が一人一人の「いのち」の証言として息づいています。そうした具体の生の諸相が、世界の公的な動きとつねに触れ合っているような世界——現代世界論コースは、そんな変容するダイナミックな世界のありようを様々な視点から探究します。

■現代世界論コースの「視点」と関連ゼミ（◆）

現代世界論コースでは主にグローバル・スタディーズ、歴史、政治学・哲学、社会学の視点から、現代世界全体をつらぬく諸問題の本質を学びます。現代を生きる人々の生と世界の動きの連関を、複数の視野を交差させながら理解を深めるのが本コースで学ぶ醍醐味です。

グローバル・スタディーズ

経済・社会思想、人類学、資源、認識論、生と労働、暴力論

「グローバル・スタディーズ A：サステナビリティを考える 2020」

現代世界における「サステナビリティ」という課題が社会科学において持つ意味を考察する。

「グローバル・スタディーズ B：グローバル世界の思想史的歩き方 2020：擬制商品を考えながら」「擬制商品」、つまりフィクションとしての商品と労働、土地、貨幣を軸に考察を行う。

◆中山智香子「グローバル・スタディーズ A：グローバル・スタディーズの思想的基礎 2020（1）」

グローバル・スタディーズにおける諸思想を学び、変動する現代世界を複合的、構造的に分析する力をつける。

◆真島一郎「グローバル・スタディーズ A：人類学と現代世界」

グローバル・スタディーズをめぐる現代思想の基本動向を、人類学との関連で把握する。

政治学・哲学

デモクラシー、正義、観念論、倫理、表象文化、レイシズム、多文化主義

「エスノポリティクス A：エスノポリティクス A」

移民やエスニック・マイノリティの諸問題について理解し、多元的な社会のあり方を理解する。

「政治社会論入門：政治学原論—「共にあること」の政治」

政治学の基本的な考え方に慣れると同時に、読み、書き、問いを立て、問いを考え抜く力を培う。

「哲学・社会思想—戦後思想の現在形・第一部」

日本の戦後思想史の展開、グローバルヒストリーとしての再定義、現代的課題について考える。

◆李孝徳「エスノ・ポリティックス A：エスノ・ポリティックス専門演習 A」

エスニック集団の様々な文化的、社会的、歴史的な事象を理解するための方法論の基礎を修得する。

◆大川正彦「政治理論 A：いのち論を始める——声・傷・息」

〈声・傷・息〉を主題とする学術書を精読し、「世界のなかで他者たちとともにあること」を思考する。

◆岩崎稔「哲学・社会思想 A：現代世界を把握するための重要概念 1」

政治哲学の基本的で重要な概念を理解する。とくに新自由主義とポピュリズムを理解することを目標とする。

歴史と現代社会

近現代史、植民地研究、マイノリティ、セクシュアリティ、日本、東アジア、ヨーロッパ

「歴史の中の日本を知る2：日本の文化遺産」

人々の暮らしや営みの中で作られてきた歴史遺産・文化遺産について学び、日本の歴史や文化を理解する。

「世界の中の日本B〔日本史〕：東アジアの中の日本史」

東アジアのトランスナショナルな連関の中で「日本史」をとらえかえす方法的視座を学ぶ。

「現代社会史論A：男らしさと近現代」

ドイツ・ヨーロッパ近現代史を、「男らしさ」という観点から捉え直す。

◆米谷匡史「日本地域研究A：近代日本社会とマイノリティ」

マイノリティの歴史・思想や日本社会の文化的葛藤、近代東アジアの日本植民地研究について理解を深める。

◆吉田ゆり子「歴史社会論A：日本の伝統社会を考える」

日本の伝統社会に関する文献を読み、日本人のものの考え方や社会が形成されてきた歴史的経緯や要因を探る。

◆小野寺拓也「現代社会史論A：現代社会史研究演習（ドイツ・中央ヨーロッパ）」

ドイツ・ヨーロッパ地域の歴史と現在に関わる諸テーマについて、英・独語のテキストを読んで議論する。

◆（副ゼミのみ）古川高子「現代社会史論A：ツーリズムの歴史演習B」

ヨーロッパや世界各地におけるツーリズムの歴史的発展と現代社会における意味を考える。

社会学

近代化、戦争、国際移動、ジェンダー、教育、セクシュアリティ、性暴力、社会運動

「社会学A1：国際社会学」

トランスナショナルな現象・プロセス・構造やその主体について、フランスの文脈での事例から学ぶ。

「ジェンダー論：戦争とジェンダー・セクシュアリティ」

戦争という事象に内在するジェンダー・セクシュアリティに対して、敏感でクリティカルな視点を学ぶ。

「教育社会学2：「教育問題」の社会学」

いじめ、不登校、子ども、若者の貧困など「教育問題」とされる事象を分析的に読み解く方法を学ぶ。

「社会学A：社会学原論」

近代化、格差、グローバリゼーション、文化、メディアといった現代社会の本質的側面を理解する。

◆上原こずえ「社会学専門演習」

社会学の理論および方法論について学び、文献・論文レビューと議論を通じて各自の専門的関心を深める。

◆加藤美帆「教育社会学専門演習」

社会的不平等と教育、逸脱、ジェンダー、家族論などに関する論文から、社会構造の教育への影響を理解する。

◆金富子「ジェンダー論」

ジェンダー・セクシュアリティ研究に関する文献を精読し、個人報告＋討論という形式を中心に行う。

◆田邊佳美「国際社会学演習」

現代フランスの移民や人種マイノリティに関する英・日・仏語で書かれた国際社会学の学術書・論文を読む。

国際関係コース

国際法・国際政治・国際経済・国際協力を学びたいひとの履修モデル

国際関係コースの科目は4つの分野 — 法・制度・国際機構の活動等を扱う国際法、各国の政治体制や国際的な統治の問題を扱う国際政治、国内や国際的な資本や資源の分配の問題を扱う国際経済、法学・政治学・経済学を応用した学際的な領域を扱う国際協力 — で構成されています。

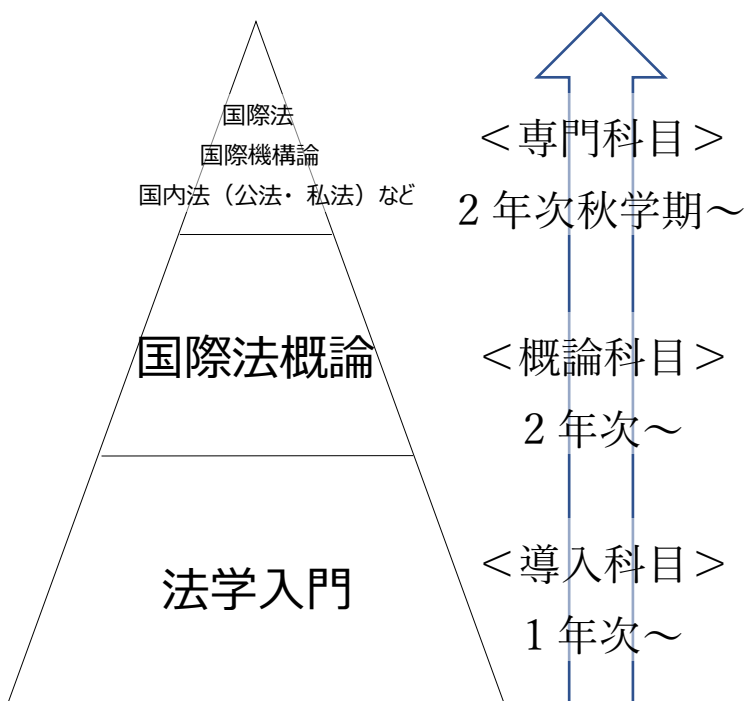
導入科目、概論科目は、この4つの分野区分に沿って開講されています。

それぞれの分野のなかで、「導入科目 → 概論科目 → 専門科目」という3段の積み重ねで、その順序どおりに、科目を履修することが必要です。

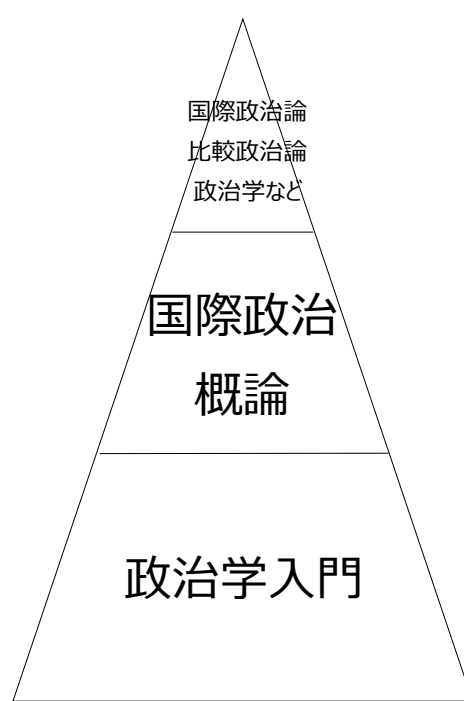
分野を交差して履修する「つまみ食い」や順序を無視しての「飛ばし」はお勧めしません。

また4年間のうちに複数の分野の履修を推奨します。

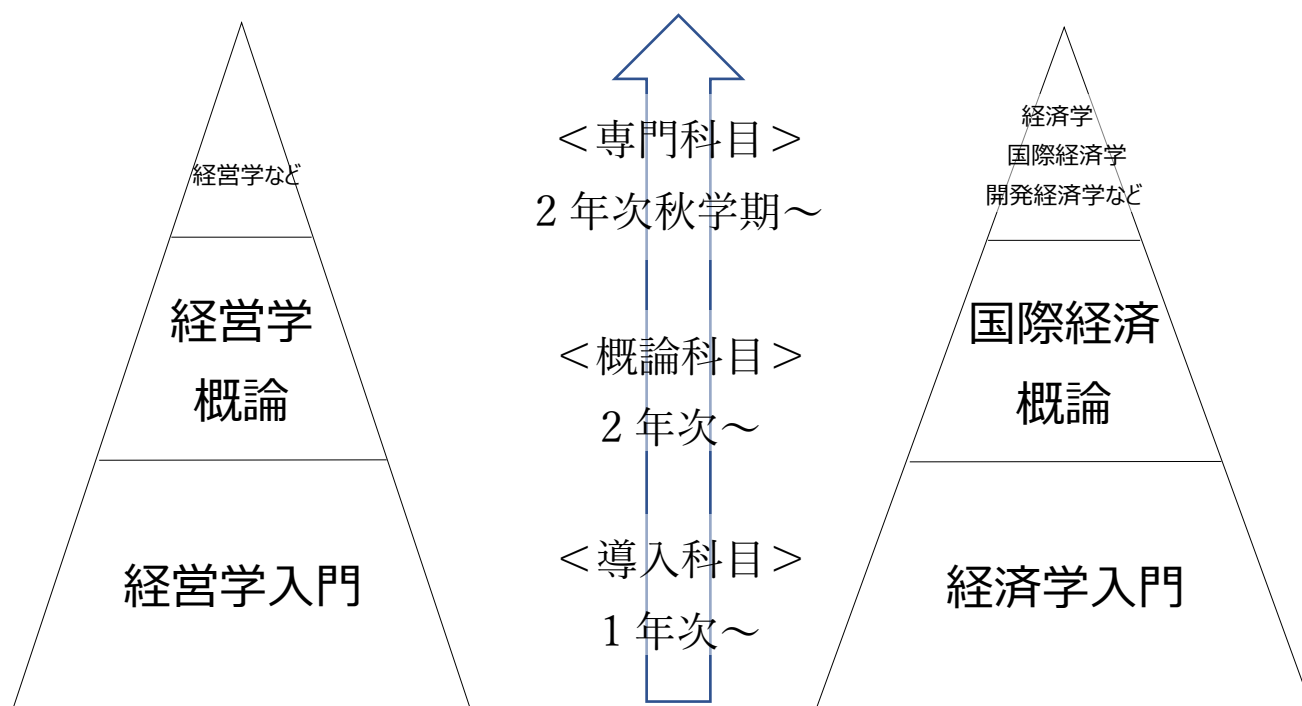
【国際法】



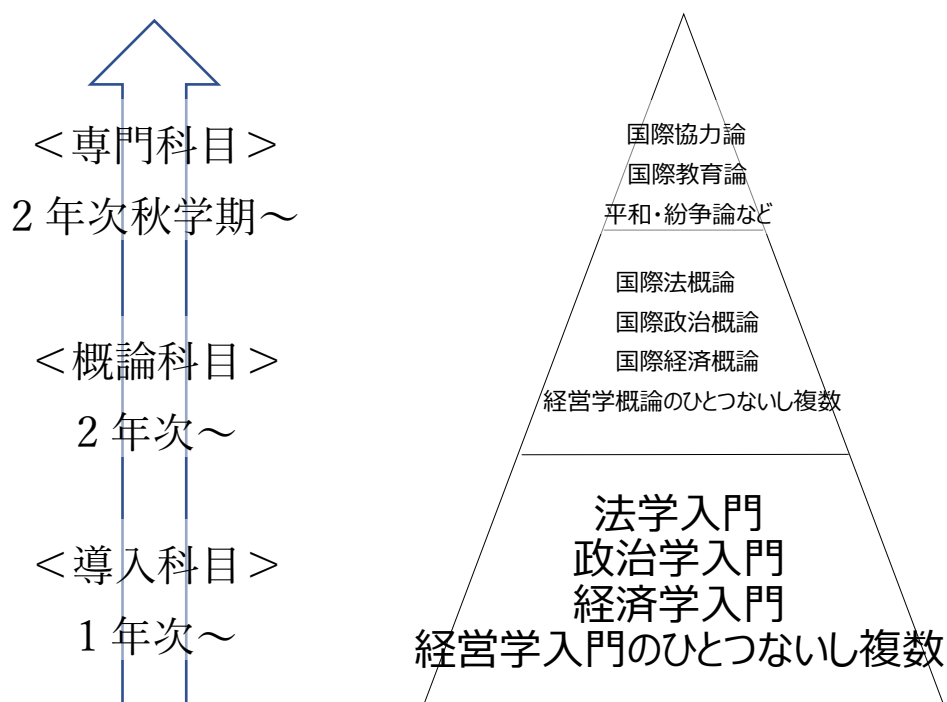
【国際政治】



【国際経済・経営学】



【国際協力】



卒業論文タイトルー2019年度卒業生ー

地域社会研究コース卒業論文

クメール語の文字処理における課題
日本の外国人労働者受け入れ政策の変遷と外国人労働者をめぐる問題の現状
多文化共生にむけた、まちづくりー現状と課題ー
ケベック社会における間文化主義
19世紀ロンドンにおける大衆文化の形成についてーミュージック・ホールと演劇の比較の観点からー
サウス・ケンジントン博物館になぜ絵画が置かれたかーその美術館化を念頭に置いた考察ー
エリザベス朝演劇の発展ー宮廷庇護と統制の関係を中心にー
台湾多文化主義の発生
天安門事件の記憶継承の場としての香港
ナショナリズム論および世界システム論を通じた台湾とアイルランド、比較への試み
若者から見る台湾アイデンティティと中台関係
中台における対日感情の違いと変化
台湾の多文化主義社会における新移民認識ーインドネシア人コミュニティを事例にー
ジェンダーと写真:既存の価値観へのアンチテーゼ
在日フィリピン人女性のライフストーリー研究
女性の社会進出における内的阻害要因
歴史の過程からロヒンギャを考える
興味のないものを好きなものと関連づけて覚える記憶法の実験記録
中国が抱えるケアワークの負担について
中国の貧困削減政策「精準扶貧」政策に関する言説分析
台湾で拡散し続けるフェイクニュースーその実態と原因とはー
中国市場における日本のアニメビジネスの構造的欠陥と展望についての考察
中国の郷村観光が地域の内発的発展につながる可能性の考察
中国における電気自動車産業に対する政府の政策とその意義
BATにみる民間企業主導の中国経済ー国家資本主義の幻想ー
中国のデリバリー産業に見られる食品安全・衛生問題について
『ボコ・ハラム』から見るナイジェリア社会の歪み
日本のアイドル文化の宗教性
反日種族主義
市場化する北朝鮮社会における階層構造の変容と支配の正当性
『村山元総理とともに日本軍「慰安婦」問題を考える』翻訳
ハンギョレにおける光州事件関連報道の検討-用語使用頻度の分析を通して-
女性嫌悪とジェンダー差別、フェミニズム:「カンナム駅10番出口」を中心に
イ・ギョンフン著『怒る前に知るべき:争点 日韓史』
マタラム王国に展開される音楽表象ーイスラームと土着的伝統の拮抗
『夢十夜』第一夜から見る漱石の心理:分析心理学の立場から

日本における移民－変わりゆく時代と社会
明治維新时期における四国遍路の停滞に関する一考察
上尾地域の紅花栽培に対する商人指導の重要性-菜種栽培との比較を通して-
京都の舞妓－その誕生から今日への変遷に注目して－
千宗旦－畳半茶室「不審庵」－今はなき姿の解明と復元－
賢母良妻主義にみる植民地期朝鮮のジェンダー規範－女子教育の要求とその限界－
－田庄七郎の籠細工興業からみる近世後期の見世物の興隆と魅力
歴史教科書『認識台湾』にみる 台湾教育「本土化」と中国の「文化台独」批判
絵双六に見る女性像－史料としての双六の有用性の検討
女性の美德－福沢諭吉の女性観を中心に－
土豪と地域社会－信濃国更級郡大塚村町田家を事例として－
大正・昭和期における茨城県南部地域の茶生産－北相馬郡取手市下高井町広瀬家を素材として
御用商人八田嘉右衛門の経済活動 松代藩との関係に注目して
台湾文学者張我軍の文化活動――翻訳・紹介活動を中心に
対口直接投資とロシアビジネス環境変遷の相関
世代間契約と持続可能な社会～ロシアにおける現況と展望について～
ロシアの年金制度と高齢化－2018年年金制度改革の影響
経済制裁下のロシアにおける輸入代替工業化は可能か
ソ連社会主義イデオロギーとロシア正教会の社会的機能における関係性－現代ロシアの宗教復興はなぜ起きたか
チェコスロヴァキアの「正常化」時代－1968年から1989年をパブリック・アートから考える－
チェコにおけるパネル式集合住宅の歴史と現在－共産主義の負の遺産か、文化遺産か－
現代フランスの教育現場における多様性と共生を考える－移民出身生徒に関する近年の映画と現地取材報告を手がかりに
フランスの新聞3紙にみる20世紀への転換期の対英世論の変化
メキシコ麻薬戦争
メキシコ革命終結に関しての考察－革命憲法の反教権主義条項に着目して－
1940-1960年代の米国移民政策決定過程－ブラセロ・プログラム期における 労働組合などの利益団体による参画の詳細－
ブラジルにおける日系人の社会統合とサッカー
パキスタンにおける政軍関係の展開：文民政治家の好戦性と軍の政治介入の関係
植民地期インドにおける女性医療宣教師団の設立とその意義
インドネシア・ジョグジャカルタにおける町内会規模の環境保護活動 -現状と今後の可能性-
外国人技能実習制度－インドネシア人実習希望者の視点と日本の労働移民政策への含意
グローバル化がインドネシア人女性のファッションに与えた影響
シンガポールの徴兵制度－ナショナル・サービスに対する国民の意識－
ヤンゴン市内における植民地遺産の保全と活用－旧ビルマ政庁の過去・現在・未来－

ムスタファ・ケマルのイスラーム政策とその後のトルコ共和国
イスラーム国の外国人戦闘員の処遇 ―9.11事件をもたらしたアラブ・アフガン現象からの教訓
日本によるパレスチナ国家承認
ヨルダン王制の生存戦略―統治構造と外交政策からの考察―
新・西アジア北アフリカ駱駝商戦-キャメルミルク下克上宣言-
門戸開放政策の中の社会主義：エジプト経済改革の試み
アラブ地域におけるエジプトのプレゼンスはなぜ低下したか
イスラーム法からみるイラン生体腎移植プログラムの正当性
乙女ファッション戦争 イスタンブールvsアンカラ
インドネシアにおける台頭する新興企業～GO-JEKを事例に～
格安航空会社の発展による東南アジアの航空産業の変化―エアアジアグループを事例に―
フィリピンIT-BPO産業と日本企業の国際展開-株式会社シケンを事例に-
タイにおける天然ガス事業とLNG―タイ石油公社（PTT）の事業を中心に―
タイにおけるデジタル化社会の発展と新興ビジネス―タクシー配車アプリ「Grab(Grab)」の例を中心に―
ラオスにおけるコーヒー産業の発展:ダオファングループとシヌークコーヒーを事例に
ベトナム国有企業の株式化と外国投資―タイ・ビバレッジによるサベコの買収を事例に―
ドイモイ以降の非国有部門改革と新興民間企業の勃興―ビンググループ(Vingroup)を事例に―
カンボジアにおける金融セクターの成長とマイクロファイナンス商業化に関する一考察―アクレダ銀行を事例に―
アニメ『ダーリン・イン・ザ・フランキス』における生と死の表象
在日大韓基督教会の伝道活動の分析
ヴィジュアル系ロックの多面性 ―Xを中心に―
公民権運動としてのギャングスター・ラップ
Documentary Research on Same-sex Partnership System in Japan: Perceptions of the Partnership Certificate Holders and the Society
誰のためのシュプレー川か ―フリードリヒスハイム・クロイツベルク再開発計画を巡る歴史からの考察―
東ドイツの体制批判運動とその遺産の検討
岩倉使節団のオーストリア観の特質と近代化への選択肢―『特命全権大使米欧回覧実記』を通じて―
マルタ共和国における文化の多様性と保護
韓国における結婚移住女性の日常生活から紐解く「環境適応」
民衆的カトリックからみたスペイン内戦
シレジアにおけるチェコナショナリズムの萌芽と変遷 チブリアン・レレクに焦点を当てて
チェコスロヴァキアにおける第二次世界大戦の国民の記憶―アンソロポイド計画をテーマとする歴史映画を通して―
芸術作品の価値形成についての多角的考察
タンゴ黎明期（19世紀末～20世紀初頭）の詩についての―考察: アンヘル・ビジョルドからパスクアル・コントゥルシへ
アメリカの映像作品における女性像の変化 ～1960年代から2010年代の作品まで～
ラテンアメリカ地域の都市についての考察
日本の幸福感和社会関係資本に関する一考察:文化的幸福観と宗教性を手がかりとして
おしゃれとは何か―その倫理的問題と克服に至るまで

「自立」を促す難民政策とその現実 ～アンゴラ難民に関する研究とウガンダの難民居住地の実態から～
ナイロビのインフォーマル市街地に関する都市ガバナンスの考察 -低所得者向け住宅の持続的な供給に向けて-
近代家族はヒエラルキーかー贈与の論理で近代家族論を読み解く
17世紀東アジアにおける、台湾を介した日本、中国、オランダの貿易及びマカオ、バダビアとの比較
街並みから辿る"日本らしさ"-都市景観に関する日欧比較-
20世紀日本におけるロシア系ユダヤ人の生活ーケーススタディ:自らの曾祖父の生活の考察ー
内村鑑三の生涯と彼のキリスト教
中世後期イングランド羊毛産業に占める北東部の意義ーキングストン・アポン・ハルと商人ウィリアム・ド・ラ・ポールを中心にー
「神の母(テオトコス)」から「慈しみの聖母(アヴェ・マリア)」へー初期普遍公会議期における神学的マリア像から敬愛のマリア信仰へー
hortus conclusus -Rupert von Deutz『雅歌注解』の世界観と女子修道院によるその継承
〈無辜の児ら〉を包む絹のむつきー中世後期フィレンツェのインノチェンティ捨児養育院と〈絹のアルテ〉
「ルースキー・ミール」の中の移民：ルースキー・ミール財団の移民に関する取り組みの分析
日本民話における異質なものに対する社会の態度についての一考察
グローバル化時代における現代ロシアのメディアについての考察ー風刺アニメ3作品を通じてー
家族消滅論と自由恋愛論のプロパガンダ：ソ連初期の印刷媒体の分析
ソヴィエト映画史における「レーニン期」の黄金時代性について
ロシアにおける交通と都市の発展について
ソヴィエト連邦における重工業とマイクロエレクトロニクスの関係性
ロシアにおけるアメリカ版ラフマニノフの受容
ロマンティック・バレエの後世における影響ークラシック・バレエと比較してー
日本におけるロシア・バレエの影響と受容
『水滸伝』に示される反乱の理想形ー『水滸伝』成立以前の民衆反乱から見る梁山泊の特徴ー
近世近代の巨大都市における木賃宿の社会構造
メデジンで暮らしたい！現地に溶け込む日本料理店の考案 南米コロンビア・メデジンにて
「踊ってたら沼にハマりました。」ーアニソングダンスについての考察
醸し家たちの物語ー現代における発酵に関わる人と菌の生活史ー
ドッピのもつシンボル性の変化ーウズベキスタンの首都タシケントに注目してー
ザンギ・アタ複合体の建築様式・機能の変化とその背景
現代ウズベキスタンにおける国民意識形成
ユダヤ文化保護活動「ザムルング」の誕生と発展ーアン＝スキからリンゲルブルムへー
日本におけるポーランドイメージの変化ー図書の分析を中心にー

*** 現代世界論コース卒業論文 ***

規範性の源泉：後期ヴィトゲンシュタイン哲学における規則遵守とアスペクト知覚
苦悩する自意識についての一考察——ドストエフスキー『地下室の手記』を中心に——
現代南アフリカにおける黒人意識運動の可能性
「日本」における歴史をどう扱うかー歴史教科書問題に焦点を当ててー
歴史学における言語論的転回の評価
近世の寛容論から考える現代社会における寛容の在り方ーフランスのスカーフ論争を例にしてー
ガブリエル・タルドの理論によるインターネット・ミーム分析
「週刊新潮」の信念を問い直すー「週刊新潮」における少年犯罪報道の分析を通じて
ドストエフスキーのキリスト像
記憶想起としての慰霊祭ー硫黄島を巡る儀礼論を中心にー
アンティゴネーの死ー現実界における倫理的なものの考察
日本における消費者民主主義とインターネットメディア
ステレオタイプの植え付けと資料の在り方ー『風と共に去りぬ』『ちびくろサンボ』は有害となりうるのかー
配偶者選択ー社会生物学の観点からー
「バリ島」の興盛ー観光による文化確立の過程からー
身体を彫刻するー日本におけるタトゥーの考察ー
ミクロネシアの観光産業
原始貨幣とグレーバー『負債論』における「人間経済」
日系ブラジル移民のアイデンティティの変容
黒人音楽のたましいー反反本質主義的観点からの黒人音楽におけるアイデンティティの分析
現代における台湾の歴史表象
人はいかにして死に対処するかーインドネシアのトラジャ族とスンバ族の葬送習俗の事例からー
サラワク州における開発政策の変遷と先住民の生活様式に与える影響
部族社会と聖者信仰
日本における少子化の背景と対策の課題点
ハワイ・沖縄におけるリゾート・文化観光の発展について
ノルウェーの先住民「サーミ」の復権に関する研究
マーガレット・ミードと現代ジェンダー概念ーマーガレット・ミードの研究の分析ー
日韓の階層問題についてー近世からの歴史と現代社会の階層問題を中心にー
大人になるとは-多元的自己の確立から考える-
日本社会における共生を目指す対話の実践ーVOMを手がかりとして
私と故郷
野望を希望に：ディズニーと原子力から見る現代世界
「ファクトリー」を出入りする若者たち-マンチェスターにおける労働者階級、音楽とドラッグ-
暴力を黙殺する暴力：ウルリケ・マインホフの「過激化」にみる人間と国家の関係
ただ居るだけの身体：フランコ・バザーリアの＜出会い＞の概念を手がかりに
幸福と富の関係性ー社会的感情を交えた考察ー
「乞食」の土地、黄金（くがに）ぬ土地：1950年代伊江島の土地闘争における農民の抵抗と「経済主義的統治」

身体の行方-身体加工の実践からみる身体観-
過渡期を迎えるミャンマー高等教育:私立大学に注目して
「不寛容」を肯定するー文化相対主義の整理とその考察ー
妖精が物語る〈空想〉の豊かさ：J・R・R・トールキンの妖精物語論に描かれる事実の在り方
リンクマンからリーダーへ 白洲次郎の軌跡を見る
撤去予定地で撤去されない人たち ～都市開発の現場に存在する暴力と権力～
ジンバブエ全国伝統医協会の研究
倫理的主体の問題系にむけてー自己の救いと真理の語りとの関わりからー
ケムニッツ事件を考えるードイツにおけるイスラム嫌悪の現在
文化遺産観光は「失われたアイデンティティ」の救世主になれるのか-英国・バース市の事例から
アントニオ・ブエロ・バリェホの現実的改革主義ーフランコ体制期の検閲下における演劇創作ー
ウズベキスタンにおける宗教と公権力に関するー考察ースーフィズムの修行法ズィクルに注目してー
ある記憶の迷宮ー日韓徴用工「問題」を越えて
カルムイク人強制移住問題ー1943-56年における彼らの「記憶」と現在ー
カオス！ 技能実習制度ー制度の中で生きる人々の人生と共にー
声なき声を聞け！ー日本におけるひとり親と子どもの貧困に関する研究
イギリスの主権とEU離脱～チャーチル、サッチャーの二人の政権に焦点を当てて～
ヒルビリーー社会から取り残された人々ー
Memory and Remembrance in Slaughterhouse-Five
スペイン自治州における独立運動の要因——カタルーニャ州とガリシア州の比較から
現代モザンビーク南部におけるロボロの意義ー近代化に対するレジリエンスの視点からー
『国民の創生』国民統合へのメッセージ
避妊・中絶の観点から見た日本の性教育の現状と課題ーニュージーランドの性教育と比較してー
LGBT映画はどのようにジェンダー・ステレオタイプを形成するのかー映画『彼らが本気で編むときは、』の分析を通して
日本のヘテロ男性向けAVの問題とは何か
なぜ医学部入試において女性差別的な不正が行われたのかー公正な医学部入試と医師の働きやすい環境をめざしてー
男性ファッション誌からみるジェンダー規範の変化ー日本の社会・経済的背景を基点にー
リプロダクティブ・ヘルス&ライツの 観点からみる日本の避妊ーアフターピルはなぜ市販薬化されないのかー
日本の炎上CMにみられる女性表象ー非炎上CMとの比較分析を通じてー
デートDVとDV防止法の課題ー支援制度の地域格差ー
女性が学歴を活かせる社会に向けて
日本における若者への避妊に関する情報提供は十分であるか？ー日本とイギリスの教育・ネット上の公的情報における情報提供を比較してー
非正規雇用シングル女性の貧困ー女性の貧困はなぜ見えないのかー
日本の男性向け深夜アニメ作品にみるミソジニーー『キルラキル KILL la KILL』を中心にー
日本の幼稚園教育とジェンダー スウェーデン「エガリア」の事例から

『ピクニック・アット・ハンギングロック』に見る、イギリスからの脱却とオーストラリアの肯定
雨路を行けば
人はなぜ演劇という名の虚構に魅了されるのか
ディエゴ・リベラの作品にみられる動物モチーフの考察
ホームレス状態経験者のまなざしによる「もう一つの都市」についての考察 My London Photo Project の写真と多木浩二の思想によりながら
『愛その他の悪霊たち』における愛をめぐって
CDを巡る日本の大衆音楽文化の趨勢
枕崎の経節文化
ポートフォリオ
舞い降りた翼
装飾された対象における芸術性ーアールヌーヴォー期のポスターからー
国際関係に翻弄される遺骨と在日問題の現状
Kilig マニラ・ビノンドを巡って
生を形象する人々
小説「語るだけなら」
移民街に見るロンドンの「多文化性」 写真から考察するロンドンの今
日本社会における英語の必要性和英語力
美術科教育は人生においてどのような役割をはたしうるのかー大学生の意識調査から美術科教育の意義 を考えるー
現代社会における学校制服の役割と問題点
学校教育における「主体的」な進路選択の課題とその可能性
女性教員の抱える社会的困難と自身の子どもへの影響
若者の教育から職業への移行における奨学金の影響に関する研究
教員文化が教員の忙しさに与える影響に関する検討
若者が大人になるプロセスにおいて大学が果たすべき役割についての検討
学校外教育の利用に関する家庭の教育戦略
ロンボク島大地震被災者の経験と語りにみえる宗教的災害観 ～災害大国インドネシアの防災教育発展に かかる要件～
「ケア役割」を担う子どもの貧困を可視化するー〈子どもの貧困〉と〈ヤングケアラー〉を超えて
日本で暮らすタイ人とその家族の今
なぜ地方高校生は国公立大学を目指すのかー愛媛県の高校を例としてー
帰国子女のイメージと実態ー帰国大学生の語りから見える、現代帰国子女の適応とキャリアー
進学をめぐる子どもたちの意識における地域差ー子どもたちの語りを通してー
日本と中国の社会から見る父親不在
教育のIT化は格差問題解消に貢献しうるか



WTO体制の成り立ちとFTA－国際法的秩序の形成－
小規模生産者による日本産加工食品の海外販路開拓について
ジャカルタの交通事情－交通渋滞緩和に向けた取り組み－
中国との高速鉄道開通にともなうラオス観光業の振興－日本の地方創生の経験の応用－
カンボジアにおけるBOPビジネスの現状と課題－BOPビジネス3.0を目指して－
対中国との韓国および日本の中間財貿易の構造と国際競争力の比較分析－2010年代を中心として－
経済危機から20年間の「韓国財閥改革」：不良経営の改善・経済力集中抑制に焦点を当てて
カナダ多文化主義の範囲と発展－権利要求の視点から－
社会の変革とヘゲモニー－ケニア・ポコット族の"揺れ動く人々"を見つめて－
2018年エボラアウトブレイクにおける子どもへの対応についての考察
現代の高校生の自尊感情の規定要因についての考察
世界から見た日本のトイレの文化的特殊性-ハイテク化の発展過程を中心に-
インクルーシブ教育のプロセスとしてのユニバーサルデザインの可能性
イタリアにおける食育の現状と課題－義務教育段階の肥満児減少に焦点を当てて～
フェイクニュースを巡る議論と今後の展望
教育現場での効果的なeラーニング利用方法についての検討
会計制度と教育
「歴史総合」の課題と展望－学習指導要領の歴史的変遷を踏まえて
ラオス人日本語学習者の言語学習ビリーフ－首都ビエンチャンでのアンケート調査の結果から－
日本の損害保険業界のこれからについての考察
変容する公立夜間中学から見える日本社会と多様性－多文化共生社会への可能性に着目して－
日本における外国人留学生の異文化適応－アルバイト経験を事例として－
ラオスにおける初等教育の問題
Status of teachers: the Brazilian situation and a comparison with Japan
現代におけるデジタルデバイドが地域経済の成長に及ぼす影響について－都道府県データによる検証－
高校野球において、「春は投手力、夏は総合力」という格言の真偽についての検証
租税回避問題の解決策を探る：タックスヘイブンの内側から
曖昧な情報の質と内容の善悪に基づく資本資産価格の変動-東証1部銘柄の株価変動を用いた回帰分析-
J1リーグにおける成績と財務諸表の関係
日本におけるキャラクターの人気の要因を探る
「8.10 ペーパー」失効後の日本の航空業界のゆくえ
所得格差と学力格差の連関－格差の世代間連鎖－
日本的雇用慣行の限界と次世代型人事管理モデルの構築
インドにおける Bollywood 映画の興行収入の決定要因
現代貨幣理論の妥当性の検証

2018年中間選挙における民主党の戦略の分析
フランスの労働市場と雇用政策ー今日までの展開とその特徴ー
2010年代における社会党の弱体化と支持層の変化について
スペイン自治州国家の脆弱性とは何かーカタルーニャ独立主義運動の台頭の背景ー
インターネット社会が投票に与える影響
ポーランド政党政治における東西差の消滅ーカトリック教育再強化の影響
外国人労働者問題と日本社会の変遷
Institution and Indigenous People: The Factors of Unstable Democracy in Oceanian Islands States -A Study on the Case of the 2006 Coup in Fiji-
What Explains the Decline of a Social Movement - A Case Study of PEGIDA, the Right-Wing Populism Movement in Germany -
スペイン民主化と地方自治問題ーカタルーニャの事例からー
Emotions and Social Movements: The Limitations and Legacy of the Civil Rights Movement
タイにおける政治変動の背景の分析ー民主化勢力と反民主化勢力間の争議政治ー
ベトナム党・国家指導部による統治に関する考察ー日本政府との比較ー
二極化したタイ国民による選挙否定についての分析
ナイジェリアとボコ・ハラムー問題の単純化の危険性ー
The “In-humane” Battlefield -The Relations between War, Humans, and Lethal Autonomous Weapon Systems-
マスメディア法案をめぐる大統領と議会の政治的対立ーアフガニスタン2004-2009ー
Contentious Politics and the Memory of Isolation in Japan- A Study on Policies of Hansen's Disease in Japan-
日本における難民認定制度の課題と今後ー難民支援と「偽装難民」問題から考える日本のあり方ー
西アフリカ地域における麻薬密輸組織拡大の可能性と予防策ー違法薬物への需要及び供給対策の考察ー
シャルリーは表現の自由を変えたのか？ーシャルリー・エブド襲撃後のフランスにえける表現の自由ー
CSRの意義とその変容ーISO26000やSDGs, ESG投資から考察する現代社会のCSRー
酒類とジェンダーーワインと日本酒の歴史から見る日本の飲酒文化の変容-
報道被害の現状分析と犯罪被害者報道のあり方について
日中間における「相手国イメージ」の形成と変遷ー「イメージ」の隔たりが生む弊害とはー
韓国哨戒艇事件・ヨンピョン島砲撃事件ー紛争回避のプロセス
ミンダナオにおけるバナナ梱包工場の労働組合運動の抵抗可能性
ソフトパワーとしてのK-POP 沿革と将来像ーなぜBTSは世界で天下を取れたのか？ー
革命防衛隊はなぜ絶大な権力を持ち続けその体制を維持できているのか
長期化難民状況（PRS）が描く未来をーホスト国と難民両側面から考える
日本におけるクルド系トルコ人の現状と子どもたちの教育ー埼玉県川口市での質的調査を中心にー
公共メディアNHKと受信料制度
インターネット社会における著作権の在り方
在住外国人への日本の法制度適用ー多文化共生社会の推進に向けてー
日本の同性婚、今後の展望と課題ー海外事例から探るー
児童虐待の防止と支援ー里親制度の現状と課題ー
在留資格から比較した日露の外国人政策とそこから見える日本の課題
出生前診断に関する法規制とこれからの展望
スポーツ事故における法的責任

WTO体制の機能回復へ向けた複数国間貿易協定の拡大検討およびそのモデルとしてのEUの高度化協力
日本における宇宙開発と宇宙の「平和利用」
移住労働者の権利保護と日本
欧州共通庇護制度と各国の庇護政策
西サハラ問題解決への課題－国際法と資源活用の観点から－
知的財産をめぐる南北対立の解消に向けたTRIPs協定の今後の展望
ISIL(非国家主体)に対する自衛権行使の合法性の検討
竹島/独島の領有権問題に関する分野横断的研究
外国人の人権
クィアスタディーズの視座を用いたプライドパレードの社会的意義の考察：セクシュアルマイノリティの今後に対する提案
北極海航路における貨物輸送の展望～商業性の観点から～
第二次世界大戦期ドイツにおける民衆の戦時食生活 -平時から戦時への移行における記憶と感情の利用に焦点をあてて
Influence of Conflict on Development: Colombia
日本のキャッシュレス化が遅れていた要因
サヤジ・ウ・バ・キンの伝統のもと、S.N.ゴエンカによるヴィパッサナー瞑想」の価値の再検討
非常事態宣言とインド民主主義体制－インディラ・ガンディーの決断－
明治初期に変則教育による訳読中心授業が始まったのはなぜか？
レバノンの政治・経済構造からデモの要因を探る
2016年にトルコにおいて教育におけるシリア難民政策の転換はあったのか？
多国籍企業の本社機能グローバル展開－シンガポールが注目される理由－
日本の国際協力NGOの民間企業連携の効果性～小規模NGOの財政・組織強化に向けた展開と課題～
移行期正義をめぐる「正義のハイジャック」と国際アクターによる共犯－アドボカシーアクターと二国間ドナーの動機に着目して－
南スーダン紛争における保護する責任と文民の保護－その現状と課題の考察－
BOPビジネスにおける多国籍企業とパートナーの協働のあり方
Conceptualizing Information and Communication Technologies in the development discourse: Artificial Intelligence for Human-Centered Development.
米中貿易不均衡拡大メカニズムの解明－米国大統領・中国国家主席の政策選好の比較分析－
国際宇宙ステーション計画へのアプローチと日本
貿易環境から見た「技術覇権」獲得のメカニズム－国際競争力の盛衰と米国輸出管理制度改革－
日本の対北朝鮮政策における対話と圧力の関係 -長期政権である小泉政権と安倍政権から読み取れる国内要因に着目して-
日EU経済連携協定の交渉過程分析－なぜ早期締結が可能となったのか－
東ドイツにおける反外国人感情の伸長に対する考察－オルポートの接触仮説を用いて-
フランス政府とNGO間の希薄な協力関係に対する考察
スペインにおける「中南米移民」の急増の背景～エクアドルとコロンビアの比較から～
ロシアにおける中央アジアからの不法移民問題－移民フォビアに注目して－
アフリカ開発援助における中国と伝統ドナー－セクター別分析から見る関係と役割－
2つの森林認証制度の併存と森林保護効果－インドネシアの紙パルプ企業を事例に－
ASEANにおける規範の変容：内政不干渉原則を巡る議論
軍事イノベーション論から見た南北戦争以後の米海軍改革-「戦艦」の獲得と攻撃的ドクトリンへの転換
ポピュリズムはどのように強権化したか－トルコ:相対的貧困とAKP政権による社会保障政策－
A comprehensive discussion on the specificity of the Japanese Official Development Assistance (ODA) to African countries through historical and empirical analyses

FDIがチリ企業の生産性に及ぼす影響に関する実証研究
途上国援助は誰のためか—フランスによるODAの動機に関する実証分析
外国人労働者が日本人労働者に与える影響に関する実証分析
“Made in Italy”の食品に関する新聞記事の計量テキスト分析
マレーシアにおける金融アクセスの決定要因に関する実証分析
キャッシュレス化の決定要因に関する実証研究
ASEAN諸国の物価変動の要因に関する実証分析
発展途上国で持続可能な開発はされてきたのか
移民が受入国の失業に及ぼす影響—移民は雇用の需給ギャップを解消するのか—
学童保育は女性の就業を促進するのか—政府による保育政策の有効性に関する実証分析
現代の日本における児童虐待が減少しない要因に関する考察
インターネット広告が企業の業績やイメージに与える影響についての実証分析
ジェノサイド後のルワンダの和解におけるキリスト教の貢献
オセアニアの教育格差の問題について
ホームレス支援の現状と課題 三鷹市・武蔵野市における事例をもとに
地中海における難民問題 -アフリカ・ヨーロッパ間における難民の現状と救助活動-
20世紀以降のCFAフランに対するイメージの変遷と新通貨ECOの導入について
地域再生・社会環境の向上に資する公立図書館に関する考察 —コロンビア・メデジン为例に—
マレーシアの教育現場における健康問題 —「食生活」と「運動」を中心に—
日本の対フィリピンODA政策
フィリピン・メトロマニラにおける強制退去と再居住による都市貧困層の生活変化に関する研究
ネパールにおける私立学校の増加と教授言語の役割：英語による教育が選ばれる理由とその影響
シンガポールの「Indian」 —マルチレイシャリズムの枠組みの中で—
インドにおける農村から都市への人口流入とスラム拡大、農村の未来
バングラデシュの教育政策と貧困層に対するNGOの教育支援
女性のエンパワーメント向上から見るインドのクリーン・インディア政策の現状と今後の展望
インドの児童労働 ILO第138号条約・第182号条約批准の課題
バングラデシュ初等教育の現状と課題—情操教育に関する—考察
クラウドファンディングによるアフリカ経済発展の可能性
東南アジアにおけるシェアリングエコノミーがもたらす個人の生活水準向上—インドネシアのライドシェアアプリGoJekの事例—
コロンビアの国内紛争と土地問題
サステナブル投資時代における「共通価値の創造(CSV)」戦略の可能性
20世紀のメキシコPRI体制における汚職と腐敗
後悔操作による現状維持バイアス軽減の可能性
シンガポールの屋台等における外食コストの価格決定要因に関する計量分析
空間計量経済学
ベトナム自動車産業の発展と今後の課題 —タイとフィリピンとの比較を通して—

※2020年1月に提出された国際社会学部の卒業論文のうち、たふれこに論文題目の入力があったものについて掲載しました。卒業論文のほか卒業研究のタイトルも含んでいます。

国際社会学部 教員一覧

国際社会学部で専修プログラムの授業を担当している専任教員の一覧です（この一覧には卒業論文を担当していない教員も含まれています）。

■地域社会研究コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
青木 雅浩	モンゴル地域研究、モンゴル近現代史	826	masamon@tufs.ac.jp
青山 弘之	現代中東（西アジア・北アフリカ）地域の政治・思想・歴史	837	aljabal@tufs.ac.jp
伊東 剛史	イギリス近代史、人と動物の関係史、感情史、 痛みの文化史	626	t.ito@tufs.ac.jp
今井 昭夫	ベトナムのナショナリズム運動史・思想史、 民衆宗教史、ベトナム戦争のオーラルヒストリー	537	imai.akio@tufs.ac.jp
大石 高典	生態人類学、文化人類学、地球環境学、中部アフリカ	506A	takanori@tufs.ac.jp
大鳥 由香子	北アメリカ地域研究	659	HP で確認してください
小笠原 欣幸	現代台湾政治、台湾の選挙、中台関係	858	ogasawara@tufs.ac.jp
小川 英文	東南アジア考古学、フィリピン地域研究	637	kidlat@tufs.ac.jp
小田原 琳	イタリア近現代史、イタリア地域社会研究、 ナショナリズム、ジェンダー	760	rodawara@tufs.ac.jp
川本 智史	中東地域研究（トルコ）	806	HP で確認してください
菊池 陽子	東南アジア近現代史、ラオス近現代史	639	kikuchiyoko@tufs.ac.jp
木村 暁	中央アジア史、中央アジア地域研究	834	s_kimura@tufs.ac.jp
久米 順子	スペイン中世美術史、西洋美術史、キリスト教文化	726	kumejun@tufs.ac.jp
倉田 明子	中国近代史（太平天国史、キリスト教史）、 中国地域史（香港・広東省、上海近辺）	853	akurata@tufs.ac.jp
坂井 真紀子	農村社会学、アフリカ地域研究、村落開発	720	sakai_makiko@tufs.ac.jp
澤田 ゆかり	中国の産業変動、労働関係、社会保障、 ジェンダー問題、地域開発	852	sawada@tufs.ac.jp
篠原 琢	チェコを中心とする中央ヨーロッパの近現代史	718	takus@tufs.ac.jp
鈴木 義一	現代ロシア経済論、ソ連経済史、比較経済体制論	704	ysuzuki@tufs.ac.jp
芹生 尚子	フランス近世史、フランスの歴史・文化・社会、軍事史、 民衆史、司法慣行の歴史	761	nseriu@tufs.ac.jp
左右田 直規	東南アジア近現代史、マレーシア政治社会史	601	soda@tufs.ac.jp
高橋 均	ラテンアメリカ地域研究	732	hitoshi.takahashi@tufs.ac.jp
巽 由樹子	ロシア近代史、出版文化史	703	tatsumi@tufs.ac.jp

千葉 敏之	ヨーロッパ中世史、キリスト教史、図像解釈、 歴史基礎学（資料体学）	649	t-chiba@tufs.ac.jp
友常 勉	日本思想史、近現代部落史、宗教と芸能	707	ttomotsune@tufs.ac.jp
丹羽 泉	宗教学、宗教社会学（朝鮮宗教論・朝鮮文化論）	860	niwa@tufs.ac.jp
萩尾 生	バスク地域研究、言語社会学	728	shohagio@tufs.ac.jp
福嶋 千穂	近世ポーランド・リトアニア史、ウクライナ史	717	fsch@tufs.ac.jp
藤井 毅	南アジア近現代史（南アジアの歴史・文化・社会論）、 南アジア地域研究、ヒンディー語	809	tfujii@tufs.ac.jp
藤井 豪	朝鮮地域研究	857	HP で確認してください
ポーター ジョン	日本近現代史、都市社会史、貧困史	522	jporter@tufs.ac.jp
舩方 周一郎	ラテンアメリカ政治（ブラジル）、国際関係論	618	HP で確認してください
宮田 敏之	東南アジア経済研究、タイ地域研究、タイ社会経済研究	531	tmiyata@tufs.ac.jp
山内 由理子	文化人類学、オーストラリア先住民研究	625	yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp
ルシオ デ ソウザ	近代ヨーロッパアジア関係	617	sousa.lucio@tufs.ac.jp

■現代世界論コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
岩崎 稔	哲学、政治思想、ヘーゲル哲学研究、戦後日本思想史、 カルチュラル・スタディーズ、集合的記憶論	518	minorui@tufs.ac.jp
上原 こずえ	社会学、沖縄現代史、社会運動史	551	uehara@tufs.ac.jp
大川 正彦	政治学（政治学原論、政治哲学）、社会倫理学	546	okawa@tufs.ac.jp
小野寺 拓也	ドイツ現代社会史、ナチズム論、日常史、 ジェンダー史（男性史）	647	tonodera@tufs.ac.jp
加藤 美帆	教育社会学、家族社会学、ジェンダーと教育	528	mihokato@tufs.ac.jp
金 富子	ジェンダー論・ジェンダー史、植民地期朝鮮教育史 植民地遊廓／現代の性売買研究、性暴力研究	552	hanul27@tufs.ac.jp
田邊 佳美	フランス現代社会研究、国際社会学	723	yoshimi.tanabe.i@tufs.ac.jp
中山 智香子	社会思想、経済思想、グローバルスタディーズ	504	nakac@tufs.ac.jp
古川 高子	近現代ヨーロッパ史、ナショナリズム、社会と自然の歴史	559	furukawa@tufs.ac.jp
真島 一郎	文化人類学、社会思想史、アフリカ民族誌学、 グローバルスタディーズ	503	imajima@tufs.ac.jp
吉田 ゆり子	日本近世史、日本の文化財・地域社会の歴史	819	yoshida.yur@tufs.ac.jp
米谷 匡史	日本思想史・社会思想史、東アジア植民地研究、 アジア／日本の思想・文化史	820	yonetani@tufs.ac.jp
李 孝徳	ポストコロニアル研究、カルチュラル・スタディーズ、 レイシズム・スタディーズ、表象文化論	517	hdlee@tufs.ac.jp

■国際関係コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
伊勢崎 賢治	平和構築、紛争予防	526	kenji-isezaki@tufs.ac.jp
内山 直子	開発経済学、ラテンアメリカ経済	731	n.uchiyama@tufs.ac.jp
岡田 昭人	比較・国際教育学、教育協力論、異文化コミュニケーション	532	aokada@tufs.ac.jp
蒲生 慶一	マクロ経済学、国際経済学、先進国経済論	557	gamou@tufs.ac.jp
篠田 英朗	平和構築、紛争解決、国際秩序論、国際協力、国際組織	505	hshinoda@tufs.ac.jp
鈴木 美弥子	民法、消費者法、環境法	555	mysuzuki@tufs.ac.jp
武内 進一	現代アフリカ研究	401E2	shinichi_takeuchi@tufs.ac.jp
田島 陽一	国際経済学、開発経済学、メキシコ経済論	556	tajima@tufs.ac.jp
出町 一恵	国際金融論、開発経済論	830C	k.demachi@tufs.ac.jp
中山 裕美	国際政治学、国際協調、地域統合、移民・難民問題	830A	yumi-nakayama@tufs.ac.jp
松隈 潤	国際法、国際組織法、国際人権法、国際経済法	550	jmitsukuma@tufs.ac.jp
松永 泰行	比較政治学、政治社会学（争議政治）、国際関係論	524	matsunaga@tufs.ac.jp
若松 邦弘	比較政治（西欧）、社会争点（福祉、移民、環境ほか）の政治	661	kwakamat@tufs.ac.jp
渡辺 周	経営学	830B	shu.watanabe@tufs.ac.jp

2020年4月1日現在



外大図書館ビジュアル大図解

国際社会学部新入生の皆さん、入学おめでとう！新しい学校、新しい先生、新しい授業・・・新しい何もかもにドキドキしていることでしょう。高校までの勉強とは違う大学での皆さんの学びをサポートするのが、図書館です。このページでは、皆さんの学びをサポートする図書館にどんな設備やサービスがあるのか、館内をご案内します。ではさっそく図書館に行ってみましょう！

◆図書館はどこにある？

キャンパス内では…



研究講義棟からは…



◆どこから入る？

大学に来て最初に図書館に行くなら1階から



自動ドア奥の階段から
2階に上がりましょう

授業の後に行くなら2階から



◆いつ開いてる？

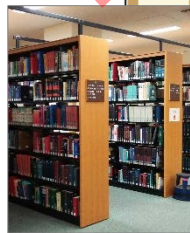
		平日	土日
春学期・秋学期		9:00-21:45	13:00-18:45
夏学期・冬学期	集中講義期間	9:00-17:00	13:00-18:45
	講義期間外	9:00-17:00	休館
休館：祝日、年末年始、授業日以外の月の最終水曜日			

2 階

辞書・雑誌・新聞・検索

辞書コーナー

語学の勉強には絶対い
るけど…重～い辞書は
ここにそろってます！
貸出はできませんが、
授業の間だけ使いた
いときはカウンターで手
続すれば図書館から持
ち出せます



2 階 PC コーナー



OPAC

(蔵書検索用 PC)

本探しにはもちろんこ
れ！3階、1階、書庫にも
あります

カウンター

貸出・返却はもちろん、
その他いろいろお問
い合わせはこちらまで。
お気軽にどうぞ！
(貸出だけスピーディ
ーに、というときは自
動貸出機も使えます)



入館ゲート

入館はここから！
学生証を
もってきてね



新着雑誌コーナー

雑誌の最新号、そろってます！



閲覧席

こんなカワイイ Tea
for two?な席も…
いえいえ、残念なが
らお茶は飲めませ
んが、春は満開の桜
に癒されながら読
書をどうぞ



新聞コーナー

専攻語、専攻地域の最新
ニュースはこちらで



コピーコーナー

図書館資料の必要と
ころをコピーする
ときはこちら。所定
の様式に記入し著
作権法を守ってご
利用ください



1 階 新聞コーナー右の階段を降りると 1 階閲覧室と書庫があります。1 階閲覧室にはアジア・アフリカ言語文化研究所蔵書など、書庫には専攻語のいろいろな主題の図書や、雑誌があります。

3 階

日本語・英語図書

3 階には、日本語と英語の図書があります。閲覧席もいろいろ、ぜひお気に入りのスペースを見つけてくださいね



《Pickup! コラム》

本の並び方

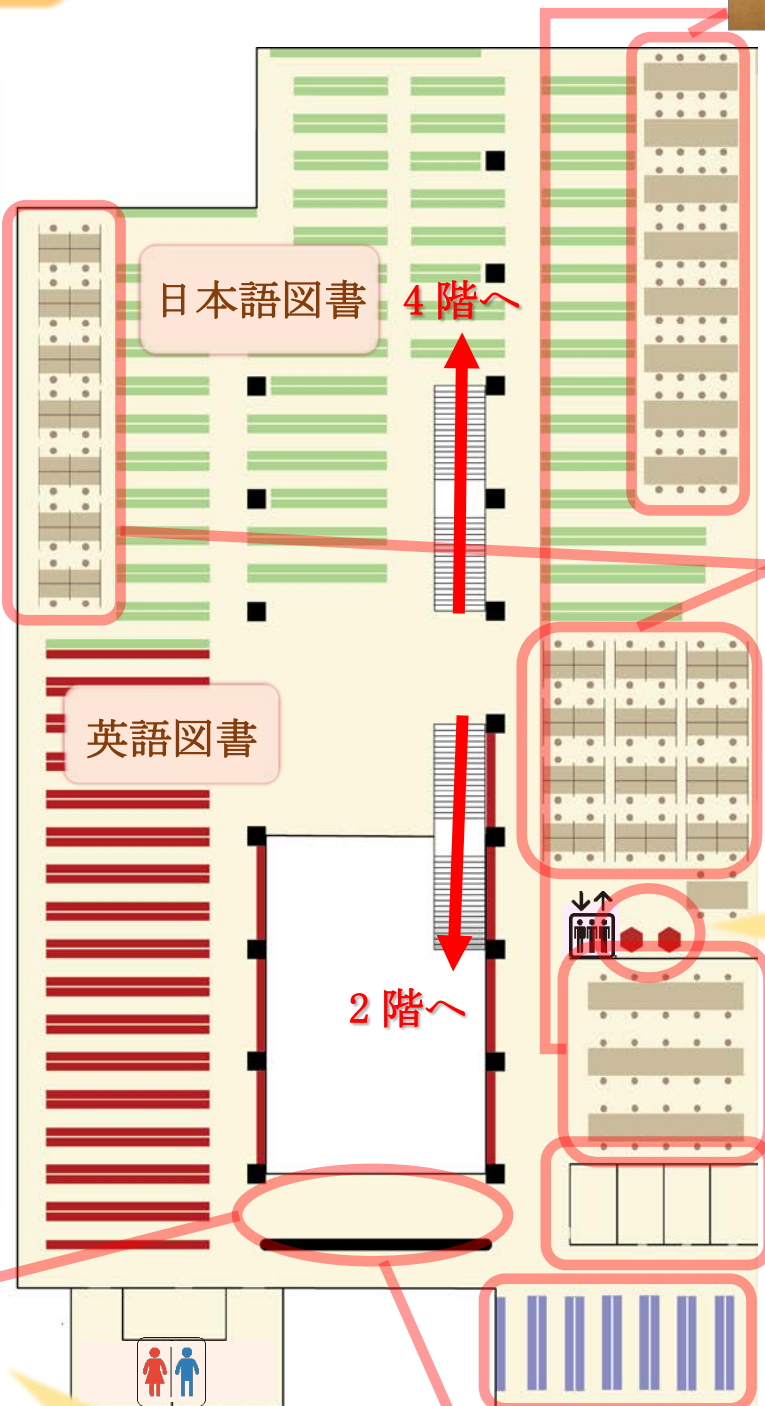
膨大な量の図書を探しやすくするため、図書館では一定の規則にそって図書に番号をつけます。外大図書館では、

- 1 段目: 言語
- 2 段目: 主題
- 3 段目: 受入順番号
- 4 段目: 巻号

の 4 段構成で図書ごとの番号が決まり、背ラベルに書き込まれています。

(例)「国際法講座第1巻」の場合、日本語(A)で書かれた国際法(329)に関する図書の1巻目なので、以下のようになります。

A
329
15
1



閲覧席

ひろびろ平机?それともこもって集中する?お好きな席でどうぞ!



個室閲覧室

授業の合間はこちらこもって集中!個室ブースの閲覧席です。使いたいときは学生証持参で2階カウンターへ申し込んでね

3 階
OPAC



個室閲覧室前コーナー

時事問題から世界の名著まで、文庫本や留学生向けの日本関連図書はこちらにあります

閲覧席

ここは吹き抜けを見下ろす眺めのいい席です。行き交う人を眺めながら、ほっと一息どうですか?



4 階

日本語・英語以外の図書
アクティブ・ラーニング



@ラボ

友達とグループ学習？
そんな時はここで！相
談しながら勉強できま
す。PC もあります



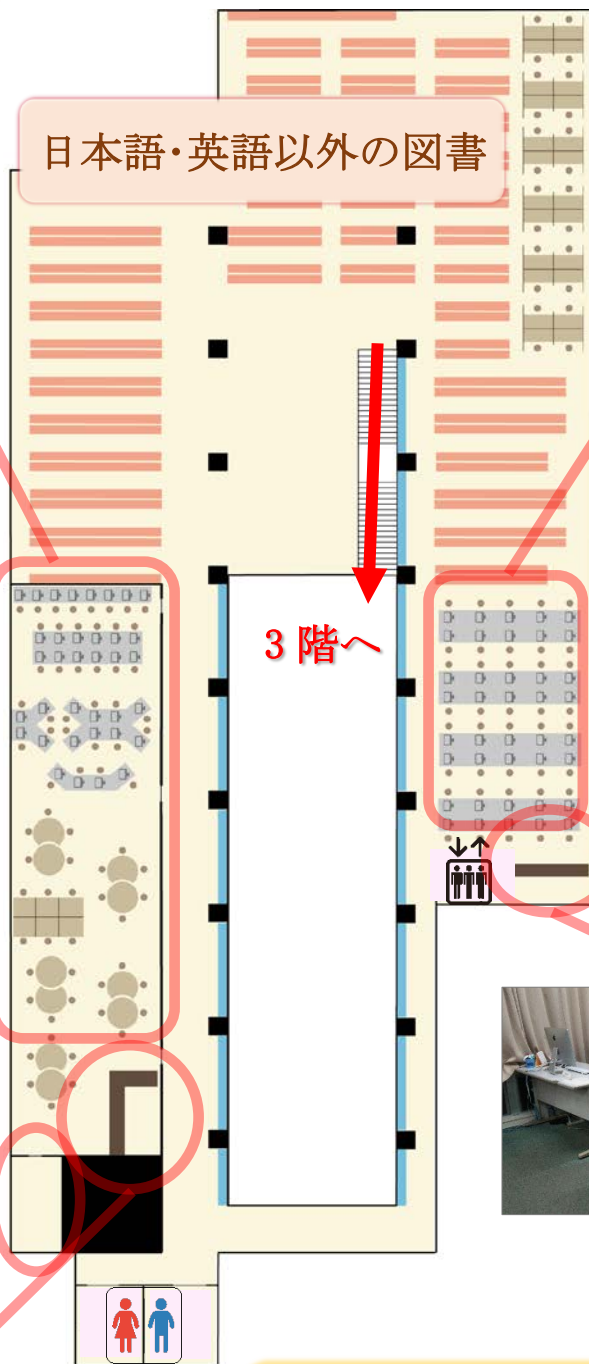
グループ閲覧室

みんなでプレゼンの練習？そん
な時はこちら。学生証持参で 2
階カウンターへ申し込んでね



4 階には外国語の語学・文学の本がずらり。
専攻語の学習書を探すにはこちらへ。

日本語・英語以外の図書



4階 PC コーナー

ICC 発行のアカウントでロ
グイン。アカウントは基礎
リテの授業でもらえます。
PC は 2 階と@ラボにもあり
ます



プリンター

PASMO、Suica など交通
系 IC カードと生協コ
ピーカードで支払いで
きます



ICC カウンター

ICC アカウントがわか
らない？プリンターの
トラブル？PC やログイ
ントラブルの時はこち
らへ

学習相談デスク

授業の履修に悩んでませんか？語学の
勉強に行き詰まってませんか？そんな
時は学習相談デスクまで。大学院生の先
輩が相談にのってくれますよ

留学ガイド

ボクは東京外国語大学の留学促進キャラクターの「トビタくん」です。よろしくネ！



留学へのいざない

『留学する学生が多い』というのは東京外国語大学の特色のひとつです。国際系の学部では、留学を義務付けている大学もありますが、本学では留学は義務付けていません。専攻語によっては、全員参加の短期留学（ショートビジットプログラム）を実施しているところもありますが、最終的に参加する・しないは学生個人の判断に任せています。そうした環境で、毎年、非常に多くの学生が海外に出るのは本学の学生さんが積極的に海外に出て行こうという外向き志向を持っているからだと思います。良くも悪くも留学に行ったら、という環境の中では、そもそもなぜ留学に行くのか？という根本的な問いかけを忘れがちです。そこで、ここでは海外に出ることの意義をお伝えしたいと思います。



海外経験を積むことがなぜ大事なのか

「グローバル化」というキーワードはいろいろな場面で目にします。「グローバル人材」という言葉も聞いたことがあると思います。大学生活を経てもみなさんが出ていく世の中は、急速に変化していく予測不可能な社会です。みなさんが小学生だったころの世界と今の世界というのはおそらく大きく異なるでしょう。周りを見渡すと、子どもの頃には無かったような新しいサービス、新しい製品、新しいコンセプトが生み出されているはず。この急激な変化は今後もさらに加速することでしょう。そうした流れが「グローバル化」の進展です。国境が意味をなさない世の中になりつつあります。そうした社会で「他者と共生・協働しながら、自分らしく生き活きと生きる」ためには何が大切でしょうか？

グローバル化する社会とは、海外進出する日系企業が増えるといったアウトバウンドの流動化だけでなく、さまざまな国籍の人が日本社会にたくさんやってくるインバウンドの流動化も促進する社会です。日本国内にしか拠点のない会社でも、隣のデスクには外国籍の同僚が座っている、ということが当たり前になってくる世の中です。そうした環境の中で、いかにして、言語的、文化的な差異を乗り越えてコミュニケーションを図り、協働していくか、というのは大きな課題であり、獲得すべきスキルです。

では、どうすればそうしたスキルを身につけることができるのか？ 方法はいろいろありますが、その中のひとつの効果的な方法が、**自分自身をアウェイな環境に置く**、ということだと思います。そのための最短の方法は海外に出ることです。留学に限らず、ボランティア、インターン等でもいいでしょう。できれば、ある程度の期間を確保できるほうが良いと思います。

母語が通じない社会、あるいは自分の常識が通用しない社会において、**マイノリティとして生きる経験**は人生にとって重要な意味を持つと思います。慣れ親しんだ母国とはちがう環境で、困難な状況に直面する中で、なんとか自分の力で、また周りの力を借りながら、ひとつひとつの課題を解決していく、そうした経験が血となり肉となり、人間的な成長に繋がります。

海外に出ることは、日本（あるいはみなさんそれぞれの母国）というコミュニティを飛び出して、日本（母国）を外から眺めてみることです。そしてそれは自分を客観的に見つめなおす機会にもなります。これまで当たり前としてきた価値観を相対化して、海外の価値観との比較から、客観視する。そのことが、新たな価値観、新たな視点、新たな自分を発見・獲得することにつながります。それこそが留学（海外経験）の価値ではないでしょうか。

さて、グローバル人材って、どういう人材でしょうか？ いろいろな定義がありますが、結局は、『どのような環境におかれても、常に一定以上、自分の能力を発揮できる人』のことではないかと思います。たとえ日本語が通じない相手でも、たとえ日本の常識が通用しなくても、そのような異文化間コミュニケーションが求められるような状況において、成果があげられる人、そういう人がグローバル人材ではないかと思います。その意味で、留学などの海外経験がグローバル人材への足掛かりになると言えるでしょう。

＜留学体験記＞

- ・国際社会学部 2016 年度入学 北アメリカ地域・英語 国際関係コース
- ・学生氏名：太田陽
- ・留学先：カナダ、プリティッシュ・コロンビア大学（派遣留学 2018.9 ～ 2019.4）

バンクーバーは地図の上で見ればとても小さな都市。しかしそこは、世界中から集まった人々と、彼らの文化がひしめき合う実はとてもビッグな場所でした。

自然豊かで広大な敷地を誇るプリティッシュ・コロンビア大学で、私は 100 年の歴史を持つ学生新聞部に所属し、授業の傍ら学生ジャーナリストとして活動しました。一人ひとりの個性を大事にするバンクーバーの特性が光るこの活動空間で、とても本格的な記者活動に携われました。

8 ヶ月に及ぶ留学生活。大学の講義に加え、記事の取材で得た知識が増えるにつれて、自分のバンクーバー社会に対する見方が大きく変わっていったことが本当に面白かったです。英語に “put yourself in someone’s shoes” というフレーズがあります。自分自身を敢えて他の社会の一員に置き換え、彼らと同じ立場からその社会を見た時、外から見た時よりも見えるものはずっと多く、その社会に対する考え方もより深くなります。これこそ、留学の醍醐味だと私は感じています。自分とは異なる人々と等身大になって物事を考える。これは留学へ行ったからこそ養えた感覚であり、生きるうえでどこへ行っても大切にしていきたいです。このように貴重な学びの機会を与えられたことに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。



目的を明確にする

短期・長期を問わず、留学をするにあたっては、留学の目的を明確にしましょう。目的によっては、留学ではなく、インターンやボランティアといった選択肢も出てきます。留学とは、アウェイな環境に身を置く機会です。単に外国語を学ぶ機会だけではありません。留学の価値・効果を最大化するためには、どんな経験が必要か、どんなチャレンジをすべきか、考えてみましょう。自分の興味・関心・趣味に関することもよし、地域のコミュニティに入ってボランティアをするもよし、ワクワクするような留学を自分で作っていきましょう。本学では、後述の通り様々な留学プログラムが準備されています。大学卒業までに、どこまで言語運用能力を高めたいのか、どんな知識を得たいのか、どんな経験を積みたいのか、といったことを考えながら、留学先や留学に行くタイミングなど、卒業までのロードマップを考えてみてください。

例えば、英語と専攻語の両方の能力を高めたい場合は、ショートビジットプログラムで英語圏（英語を学ぶコース）に留学し、長期の交換留学で自分の専攻語の国・地域へ留学する、などプログラムを組み合わせる人が多いです。もちろん、ショートビジットプログラムと交換留学で同じ国に行く人もいます。長期の留学が難しい場合は、短期のプログラムをうまく活用するとよいでしょう。

最近、海外でインターンシップを希望する学生が増えています。日本と海外とではインターンシップについての認識が異なることがあるので注意が必要です。一般的に、海外でのインターンシップは、具体的なスキルがあることが前提で、そのスキルを活かして自分を受入先の会社に売り込む場でもあります。日本で行われている職場体験のようなものではないため、それ相応のパフォーマンスが求められます。インターンシップに参加する場合は、自分は何ができるのかをよく考えた上で応募しましょう。

<留学の種類>

区分	プログラム名	内容
長期留学 (1学期間以上)	交換留学	本学協定校との学生交換の枠組みで、本学から派遣される形の留学
	休学留学	休学して留学するもののうち、単位認定の申請を行っているもの
	自由留学	休学して留学するもののうち、単位認定の申請がないもの
	長期インターンシップ	休学して海外に在住するもののうち、目的がインターンシップのもの
短期留学 (1学期間未満)	ショートビジットプログラム	夏学期、冬学期に本学協定校が実施する短期のプログラムに参加するもの
	スタディツアー	本学や他の公的機関が実施する海外での学修プログラム
	短期インターンシップ	本学グローバルキャリアセンターが実施する海外での短期インターンシップ
	短期自由留学	大学の制度を利用せずに、夏学期・冬学期に海外の教育機関（語学学校等）に留学するもの

詳しくは「留学案内」、本学のウェブサイトをご確認ください。

<手続き>

留学の手続きは、プログラムによって異なります。ショートビジットプログラムについては、毎年4月および10月に説明会が開催されます。交換留学については、毎年10月上旬に説明会が開催されます。詳細な情報は、本学ウェブサイト「留学案内」をご確認ください。

<http://www.tufs.ac.jp/student/studyabroad/>

なお、海外でのインターンシップについては、キャリアセンターのサイトもご確認ください。

<http://www.tufs.ac.jp/student/careersupport/>

<協定校>

本学は、世界中の150を超える高等教育機関と学生交流の協定を締結しています。協定校に関する最新の情報については下記のサイトをご参照ください。

<http://www.tufs.ac.jp/student/studyabroad/schools/>

<留学費用・奨学金>

留学にはお金がかかります。留学費用は留学先、留学期間、宿泊先などによって大きく異なります。発生する必要としては、「渡航費（飛行機代）」「授業料等」「滞在費（宿泊費、食費、通信費、生活費）」「保険料」「その他の費用」などです。授業料は、休学して私費留学する場合、欧米の大学学部の場合、年間で200万円ほどかかります。滞在費を含めると年間300～400万円必要な場合もあります。短期の語学留学では、欧米の英語圏の場合、1か月で50万円程度はかかることが多いです。事前に、どの項目でどのくらいの費用がかかるのか、必ず確認しておきましょう。

金銭的な負担を軽減するためには奨学金を獲得することをご検討ください。奨学金には返済不要のもの（給付型）、返済が必要なもの（貸与型）がありますのでご注意ください。また、奨学金の申し込み時期は実際に留学する1年以上前に設定されているものもあります。早め早めの情報収集を心がけましょう。情報収集に役立つサイトは次の通りです。

- ・本学ウェブサイト「海外への奨学金に関する情報」
http://www.tufts.ac.jp/student/tuition_scholarship/scholarship/nihongakusei.html
- ・日本学生支援機構「海外留学支援サイト」
<http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

<危機管理>

海外渡航の際は、海外旅行保険・海外留学保険への加入を義務付けています。大学の制度を利用して留学する場合は、『学研災付帯海外留学保険（「付帯海学」）』への加入が必須です。加入手続きは、それぞれの留学説明会などでご案内しています。

また、安心・安全な留学を実現するために、リスクのある地域への渡航については制限を設けています。具体的には、外務省が発出する海外安全情報の「危険情報」「感染症危険情報」において「レベル2」以上の地域への渡航は認めておりません。渡航前にレベル1以下だったものが、渡航中にレベル2以上になった場合は、帰国や安全な地域への移動を要請しますので、ご承知おきください。

<留学体験記・留学相談>

みなさんの先輩方がどのような留学をしてきたのかを知りたい方には、留学体験記をご一読することをお勧めします。

- ・トビタ君留学日記
<http://www.tufts.ac.jp/studyabroad/tobita/>
- ・受験生ナビ「留学体験記」
<http://www.tufts.ac.jp/admission/navi/support/studyabroad/experience/>
- ・留学体験報告書「交換（派遣）留学」
<https://mdle.tufts.ac.jp/exchangeReport/ryugaku>
- ・留学体験報告書「ショートビジットプログラム」
<https://mdle.tufts.ac.jp/exchangeReport/visit>
- ・「留学大図鑑」（留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」サイト内）
<https://tobitate.mext.go.jp/zukan/>

留学に関する情報収集には、各国の関係機関（Education USA、British Council、Campus France、各国大使館等）や民間の留学エージェントが開催する「留学フェア」も活用してください。学内では、毎年10月に、「TUFS Study Abroad Fair」を開催し、留学経験者の体験談を聞く場を設けています。

◆留学支援共同利用センター

留学支援共同利用センターでは、個別に留学についての相談を受け付けています。留学について漠然と考え始めた段階から、留学先への申請やビザの申請方法等具体的なものまで、あらゆる相談に応じています。相談は予約制となっています。相談をご希望の方は事前に「留学相談申込書」を、当センターにご提出いただくか、メールでお送りください。

留学支援共同利用センター（通称「トビタセンター」）留学生日本語教育センター棟1階

e-mail: ryugakushien@tufts.ac.jp tel: 042-330-5113

<http://www.tufts.ac.jp/institutions/facility/ryugakushien.html>

（「留学相談申込書」は上記サイトからダウンロードできます。）



学生相談室

～心豊かで実りある学生生活を送るために～

忙しい日々のなかで、どうしたら元気に学び、心身ともに成長していけるでしょうか？
ストレスと上手に付き合う方法などをご紹介します。

1. 学生生活サイクル（鶴田, 2001 より抜粋）

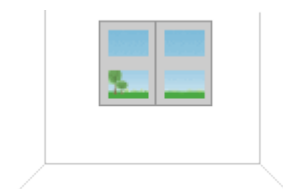
	入学期（1 年生）	中間期（2～3 年生）	卒業期（4 年生）
課題	新しい生活に慣れる 多くのことを自分で決める 大学のカリキュラムに慣れる、関心領域を選ぶ 目標設定 新しい対人関係	自分らしさの探求 自分を見つめ、関心を絞る 将来の進路選択の準備 対人関係の深まりと広がり	将来への準備 卒業論文の完成 卒業による別れ 進路の決定
心理的特徴	入学したことについての気持ちの整理（達成感、戸惑い、違和感など） 受験勉強から、自分の興味や関心に沿った勉強への切り替え 現在の進路の受容	生活の管理（時間の過ごし方、食事等） 自分らしい生活の展開 友人関係の問題 内的世界を豊かにする、それを言葉にする力	進路決定にあたって内面と現実の統合 経験を積み重ねる 現実生活を生き抜く 学生生活をまとめる

大学生活では、それぞれの時期に応じた課題と、心理的な特徴を持つといわれています。

大学生は、「自分は何者なのか？」という問いを抱えながら、様々に試行錯誤する時期でもあります。
大学生活は、色々なチャレンジをしながら、自分らしさを探す旅ともいえるかもしれません。

どんな旅をしてみたいですか？

たまに、ゆっくりと座って、自分の内側に注意を向けて、
どんなことがしたいのかな・・・と問いかけてみてください。



自然に答えが出てくるのを待って、まだ言葉になっていないけれど、なんとなく身体で感じる感じに、
好奇心をもってやさしくしてみましょう。

・・・・・・ああ、自分は、本当はこう感じていたんだな、とわかるかもしれません。

アン・ワイザー・コーネル(1996)「やさしいフォーカシングー自分でできるこころの処方」

コスモスライブラリー

2. スケジュール管理の方法

沢山のことを学び、充実した日々。しかし忙しく余裕がなくなってくると、どうしても視野が狭くなりがちです。

そんなときには、抱えているものごとを書き出して、眺めることで、余裕を取り戻すことができます。デジタルでもできますが、たまには手を動かして作業するのもいいかもしれません。自分にとってやりやすい方法で工夫してみてください。

<用意するもの>

1か月の予定が見える手帳あるいはカレンダー（大きめがおすすめ）、付箋、マスキングテープなど

<手順>

- ①課題や用事、気がかりを、付箋やマスキングテープに書き出します。カラフルにするのも○。
- ②書いたものを、手帳かカレンダーの実際に行う時期にどんどん貼っていきます。
- ③付箋が混み合っているところは、忙しい時期！周辺に「ひと休みできる時間」を確保しましょう。
疲れから回復するのに必要な、休み時間もスケジュールに組み込むのがポイントです。
- ④頑張った内容に応じて、自分へのご褒美を考えることも忘れずに。
- ⑤実際に達成したら付箋をはがして「終わったもののリスト」に貼っていきましょう。

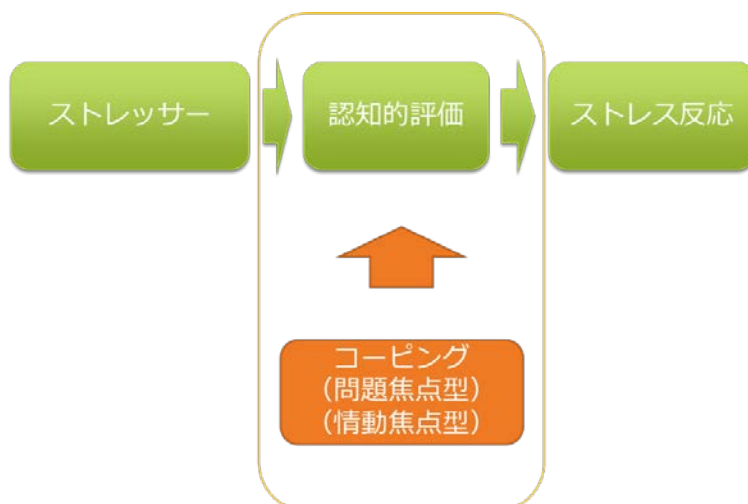


3. ストレス対処



ストレスには、いろいろなものがあります。気温や気圧などの環境的な要因、病気などの身体的な要因、不安や悩みなどの心理的な要因、人間関係の変化などの社会的な要因など、ストレスを与えるものを「ストレッサー」と呼びます。

私たちは、ストレッサーを評価しています。そのストレッサーが自分にどんな影響を与えるか、そして、それを自分の力で統制できるかどうかです。そして、ストレスへの対処方法（コーピング）を選択します。



問題状況を解決するのが「問題焦点型」のコーピングです。例えばサークルや行事で困ったときに、それについて考えたり、調べたり、先生に質問したり、同級生や先輩、後輩と話し合ったりすることなどを指します。一方で、そのときの気持ちや気分の改善を目指すのが「情動焦点型」のコーピングです。問題は置いておき、ひとまずお茶を飲んでほっと一息つくことや、おしゃべりして気分転換することなどがこれに当てはまります。問題状況や人によって、どの対処方法がうまく当てはまるかは異なります。

様々な場面に対応するために、ストレスへの対処方法はできるだけ沢山の方法を持っておくことが良いとされています。皆さんは、どんな方法を持っていますか？

勉強の方法を工夫したり、時間の計画を立てたり。旅行や映画、読書、寝る、運動する、街を歩く、友人とお茶をする、美味しいものを食べる、趣味に没頭する、何もせずぼーっとする……。色々試してみてくださいね。



ストレスについて、より詳しく知りたい方はこちらをどうぞ：

熊野宏昭(2007)「ストレスに負けない生活」ちくま新書

また、ストレスに強くなるためには、自律神経を整える習慣をつけることも役に立ちます。もし興味のある方はこちらをどうぞ：

原田賢(2018)「忙しいビジネスパーソンのための自律神経整え方 BOOK」ディスカヴァー・トゥエンティワン

自分なりのコーピングでうまくストレスに対処できないときに、私たちには様々な「ストレス反応」が現れます。お腹が痛くなったり、肩が凝って頭が痛くなったり・・・といった身体反応、気持ちがいらいらしてしまったり落ち込んだりする心理的な反応、ストレスがかかる場所や場面を避けてしまうなどの行動にも表れることがあります。そんなときに役立つのが「人の助けを借りる力」です。

4. 「援助希求(help-seeking)」能力を身に着けよう！

人に助けを借りることは、だれしも恥ずかしいと思う気持ちがあると思います。しかし、困ったときに人に頼り、質問したり、教えてもらう力は、社会人になったときには、とても必要とされる大切なものです。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という諺があるように、ほんの少し勇気を出して、質問したり、相談してみたりすることで、道が開けてくるかもしれません。まずは身近な人、友人や家族、指導してくださる先生に、早めに相談してみてくださいね。



5. 学生相談室の利用

とはいえ、すぐには解決できない問題もあります。また、時には第三者に話をしたほうが落ち着いて理解できることもあります。そんなときは、いつでも学生相談室をご利用ください。

学生相談室では、授業、サークル、アルバイト、日常生活上の問題や人間関係、進路、身体や心の健康など、大学生活を送るうえで困ったこと全般の相談を受け付けています。



持ち込まれた相談には、事前面談の後、カウンセラー（臨床心理士）が内容や程度を問わず親身になって対応しています。継続的なカウンセリングも可能です。また、必要に応じて学内外の他機関をご紹介しますこともあります。

学生相談室では法令や倫理綱領に基づいて守秘義務を遵守しており、相談者のプライバシーを守り、安心して相談ができる体制が整っています。

受付では心理に関する本の貸し出し等もしています。関心のある方は気軽にお立ち寄りください。

学生相談室 HP

<http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/sccs/>

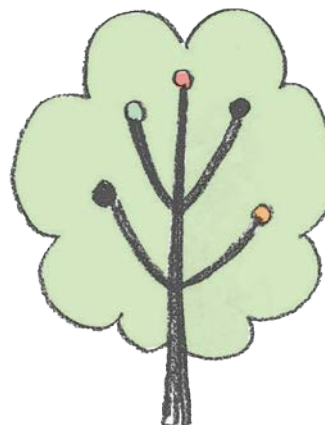
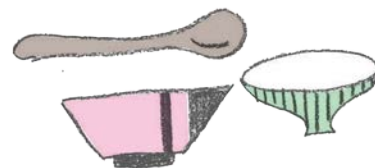
受付窓口：保健管理センター棟 1 階 北口ドアより

受付窓口開室時間：月～金 10 時～17 時(12 時 30 分～13 時 30 分はお昼休み)

相談申し込み方法

- 受付に直接来談も可
- 電話：042-330-5560（受付直通）
- ホームページ上の相談申し込みフォーム（学生相談室ホームページからリンクがあります）

<https://business.form-mailer.jp/fms/51acb6c485374>



2020 年度 国際社会学部 学部運営体制

学部長 真島 一郎
副学部長 松永 泰行

地域社会研究コース コース長 丹羽 泉
現代世界論コース コース長 大川 正彦
国際関係コース コース長 鈴木 美弥子

学部長補佐（教務担当） 倉田 明子
学部長補佐（入試担当） 左右田 直規
学部長補佐（学生担当） 福嶋 千穂
学部長補佐（教務・点検評価担当） 青木 雅浩

地域代表教員

北西ヨーロッパ	伊東 剛史
中央ヨーロッパ	篠原 琢
西南ヨーロッパ	芹生 尚子
イベリア	高橋 均・久米 順子
ロシア	巽 由樹子
中央アジア	青木 雅浩
東アジア	澤田 ゆかり
日本	米谷 匡史
北アメリカ	大鳥 由香子
ラテンアメリカ	高橋 均
アフリカ	坂井 真紀子
オセアニア	山内 由理子
東南アジア	宮田 敏之
南アジア	藤井 毅
中東	青山 弘之



※作成にあたって附属図書館、留学支援共同利用センター、学生相談センターのご協力をいただきました。

東京外国語大学 国際社会学部の歩き方

2020 年度入学生版

2020 年 3 月発行

東京外国語大学 国際社会学部

表紙デザイン：高橋 良美

Twitter : @yopsymi Instagram : @yopsymi

（国際社会学部 現代世界論コース 西南ヨーロッパ地域/スペイン語 3 年生）※学年は発行時